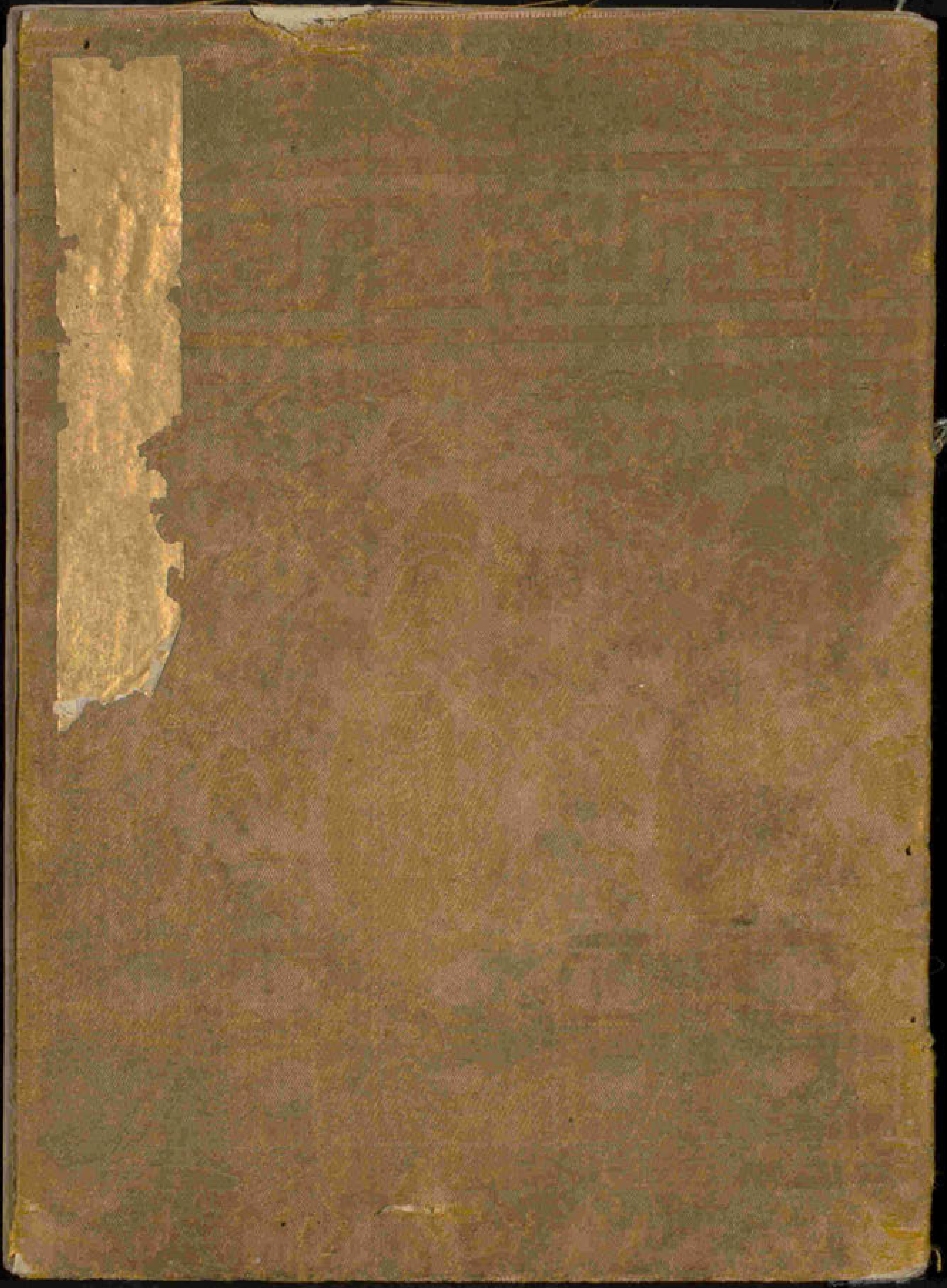

飛鳥井殿雅親卿
御法名栄雅
七代和歌集極書之通

飛鳥井殿雅親卿
七代集極書
わり雪の

飛鳥井殿栄雅筆
七代和歌集　一冊

後撰集
拾遺集
後拾遺集
金葉集
詞花集
千載集
新古今集

後撰和歌集巻第一　抄出

春上

正月一日二条のきさいの宮にてしろきおほうちきを給はりて

ふる雪のみのしろ衣うちきつゝ春きにけりと驚かれぬる　敏行朝臣

春たつときゝつるからに春日山きえあへぬ雪の花とみゆらん　みつね

なかなかは萩のやけ原[illegible]

[illegible]

[illegible]　読人不知

[illegible]池の[illegible]　友のり

[illegible]大和へまかり[illegible]人の

家の娘を見[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の月[illegible]

[illegible]　伊勢

人まちわびてはつ時雨のやまぬまにかはらは
まちかねて我ならなくにあやなしや人のこゝろの花ぞちりける　読人ー
吹風にちりすぎぬらん梅の花さかりの衣につゝみてんかしー
まつ宿は梅の卯花のかはいたく月ともみてはまだ見ぬー
梅花わかにはまだあるまじき神さびひとつを家つとに　読人　高性法師
吉野やかにはかぞ山てまちかねん桜の花笠のもとやいづる　読人ー
藤山をつまどころなき鶯の鳴こゑはうらやましかれー
われら宿はふりつつ二本にまつ家のかすみに鶯を鳴くー
花みてもまどはるゝ春はなく一ぐさいはとんー
あつたの宿のはなぞえぐしわかれに袖はつゆまつりすー
いたう家のえひ入ひとむかしの真柳までつかるん春のちぎり　躬恒
花の色はちるぬまゝかつりかへりつゝ梅本はねのみなりあひたきて

春中

咲まそて梅花ともにてあるとし見まよ旦一かおりそ
えて時花は見へて咲ちることはいれる老ぬれときけどー
花やのまつまく竹めまづ来てやうてと
行近く花ちこゝ梅いせ一堂の所にさきすけは朝へとる花を　伊衛顕長

大和のあるとも山とまづるて
いそのかみふる山きのさくらを人をとへば人まちにつかまつる
花山てそ法とてきけらたゝ人の名がりて
山りはいつともいつかんこゝ桜の名も上の雲にかゝりて人まてなきん　高性ー
吹風とあらしの花は桜花のとけてあるかちりと見へて　読人ー
吉野なる竹の中を桜かぞはなとて
桜花さくらくさてん美作の一本は春にちるまでもまつれこれの
良教の何時ゆきのまきつゝまつつけり
年かくてさか川ひて我かくさね年々こゝそくちて風のゆきちて何事良民
家よりさまらて時お武の桜は花にいはゆむ
桜花のとゝいもはるかゝのは吹立ち風にさくはてさすらん　貴良君良
まちわびてまくれば月はきぬるかりける花つけて　読人ー
年は梅のはるの袖をあきちる花を風にまかせー
誰の家も山家の家をあさいしのけりてそこの花るかなしらん
いつもし折ていつつまでもわかいきさひとつけ
山里まちかまへつい桜花もかへ雲とちれをうれー
吉野池の花りてかまことにかをすのゆうまれ立てすまるか　三雲のうち　道く

山風の花のかとふふもとには春のかすみそほたしなりける
あたなりと名にこそたてれ花とこそ思へ　読人しらす
年をへて花のたよりにこととはゝいとゝあたなる名をやたちなむ
よそにみるときさへひとつのへたてそとゝけり
我宿の花見かてらにくる人はちりなむのちそこひしかるへきに　躬恒
春下
桜の花のかめにさせりけるかちりけるを見て中務につかはしける
久しかれあたにちるなとさくら花かめにさせれとうつろひにけり　貫之
千世ふへきかめにさせれと桜花とまらむことはつねにやはあらぬ　伊勢
風をしも待てそ花のちるかはいつくもさらふつらゆき
ちる花の思ひかはまつやちる人やめつらむ　読人しらす
青柳の糸によりかくる春のまゆには柳のまゆそさきもえにける
くるゝかとちりてもいるや咲てある花の咲てかをりみえくし
かせふけはちれる花の色まさりてはなをそへにける　躬恒
春くれはふることなきをおもはするかな花そうつろひにけり　つらゆき
春日野にさきてちる花をみてそ我さためなん　読人しらす

鶯のなくのへことにきてみれはまつうつろふ花とそてほし　伊勢か
あかさりし秋の月と花とは同しかるらむ人の心やちかきまたあるらむ
都人きてもをらなんかはつなくあかたの井との山吹の花　公平女
さくら川といふ所ありときゝて
つねよりも春へになれはさくら川花の浪こそまなくよすらめ　つらゆき
まかきよりよひとく衣山吹の八重はみえしとにほふなりけり
はるさめの花の枝よりなかれこは猶こそぬれめかもやうつると　つらゆき
いつみの国にまかりけるに海のつらにて
吹く風の見えぬをとこの江の浪に花の散りみえけるかな　読人しらす
我ともにうつろふ春をひとりのみあかすもみまし　読人しらす
宮つかへしける女のもとに花をおりてつかはしける
うけけり
春もみえなる山人はいかにあるらん花とのみ見ゆ
わか宿の池の山吹の花の浪にゆかしくもあるかな
ちかきの川のけしきはそのいふにゑしてゆふ枝の山吹
わかいゑにかへりけるそのおりにいせ枝にかけてまつる　遍昭
よのなかにたえてさくらのなかりせは春のこゝろは　つらゆき

桜ちらさ衣のかさねわいきてまかひけるかなし　読人ハ
やよひのはうらし一月あるとし　つきせぬのうらみをよみて　尤
こ花の家にてよめる
あまりにくれて行へき年ハみて　まてまつすまゐりけ也
春ことに年ハふれとも花ハ人をまつとしるけりの花まきさく
やへ山ハのちりてうるわい衣のをひて　かれりもちりせも春のこ
わかことも　ことのまつらハ春にてかしはなれ行
夢てみかすきしなにさくの日ともつけとて春のいうらん
みきえ時をとしの人をたのすれの文秋の行けわい持きたる春の

夏

夏りハ夏の衣にきかれとも人ハいろいろに　読人し
郭公きゆうりにいてハ行ら代りの名のゆ
時きりの雲をみれてハ恒柿にてさけの花
あひしきらねや　郭公月にかゝれしもら
木の下ほとゝきす　郭公羽ふりつきりせ　伊勢
君原のうつ代令にけ第人のそてらの行けるけ文
のこしにてつらてまつりけり

五

ひとゝせの一声の宮此のまてなくなる　郭公なけとも頃
松原のおもかけのねえさけるかたのまし入て行けり
行かやれうるゝのりふるけてまたのむかし日まて　読人
出しはけても人のおもかけにてをみれは　ほとゝきせ
郭つちに衣きかへ夜ハみすへて　みえのをきけれ
宿りゆかも夏の文人　かけまし　とや常のせむ　春日詠花
夜の衣あやなく　ひくとききて
夏の衣のかけゆくまてにこの影の松風吹けハ　夏の
思ひ出川の山下ゆくハ行のけしきにかゝりてらけ
夜の衣ハおもふ人の山のうちゝやまし時けり　言
夜の衣こゝし　抄陳して明けの人の詠してけり
二三ととききしといふ　郭公ものとゝけてまつし　伊勢
おもけのけり　郭公ハ二ニとて二ところてふ　語人
松のうへに山の木のえのれ比ニハきこゆやし
とこなつにてゆかん　きけともしるらん
行にわれてのまつりの月のわれさやまてとみて
やよひの月のけ人をまちかねつかし

二葉よりまつ三かさ山に君まつ二しん花の色とくへてちりけり　詠人しらす
又よりの為の比久しくまゐらさりけれは女の母
われとこそしらさりし世の親なるをいかにきけるに
可
詠の月くもゐにかけて山のはにたちかへりてこそ詠人しらす
郭公千ゝなく声をきゝてかくなんよみける　伊勢
八月二日よりけるよるよみて
けさはかのつけゝる年のなかにはゆくへもしらぬ我身なりけり　詠人しらす
いさよひのつけをまつ夜のまつ人のくるしきことをいかにせん
いとすゝしきよの山の郭公はなつかしとなくこゑの聞く　師尹朝臣
郭公なきてゆくへの一こゑに世中をはなけくなりけり　詠人しらす
Aさはちかたのとこ夜花をたつぬへきけれはなけゝる
かきくらし雨ふりゆけはさよなかに月もかくれぬ
秋ちかう夜ことにゆけは郭公なくなかにたにたつねけれ
よるの空にたゝよふ雲のかゝらぬは月のかけにやあらん
秋ちかくなりて
つきよみのひかりをまちてかへりませ山ちはくりのいかのおほきに
天の川よきて行なし夜の秋はあまの河原の月のかけかな

月はよろつにねかはしめてとゝめてまつ人のよそにたゆたふ
とてよ
萩か花郭公のなくやまゝの山のうへにちらさらなむ
花もかくれ我もとまらすゆくへをしらぬ八千とせもつきせぬ
夜ゐの間に人のすみけるに我ときくの人のかりそめに詠人しらす
こゝろからはなの露けきは月のかけとや咲きてちりなん
みそきするかはらにいてゝ月のかけにとまる　六月祓不限晦日
かは川のかはせにさいてゝ月をとめてたのしむたのしみ
閏月二あるとし
七夕はあふことかたき七夕の空のみとりにはるかなるらん
秋上
ふかけぬるまさきのかつら秋の色にかつらきの山の詠人しらす
まちかねし七夕つめはひさかたのあまのかはらの空もかけつ　宇陵
まつ月七日しふかくなりて
まつはまて　
雨ふりて水まさりけり天の川こよひはよそにこひんとやみし　源中正
又かはりのかはのかち世知をこえわたらむとするまに舟ははやく　詠人しらす

七夕も秋をまちけりあまの川　[illegible]

いとこれのまはりつ秋のとこなつ [illegible]

むかしはよめの年は [illegible] 一秋のこと [illegible]

七夕のあはんとまつ [illegible]

天川は [illegible] けれとも君か [illegible]

天川 [illegible] の [illegible] て秋の七日の [illegible]

秋の夜のあふ別と七夕は [illegible]

七月七日の朝

同　七夕のあふ朝きの天川 [illegible]

同　朝 [illegible] 七夕はあふ別の [illegible]

秋来の [illegible] けふより秋風は [illegible]

[illegible] の [illegible] の [illegible] の名 [illegible]

秋風の [illegible] ひ [illegible] くも [illegible] の [illegible]

[illegible] や [illegible] き [illegible]

秋 [illegible] 立のおやとは [illegible]

風も [illegible] 秋 [illegible] の [illegible]

秋の [illegible] 風の [illegible] とすなれ [illegible] 田 [illegible] 秋 [illegible] ね

秋 [illegible] 家 [illegible] けりし [illegible] の [illegible]

[illegible]

山 [illegible] の [illegible] 萩の [illegible] の [illegible]

二人の [illegible] 女の [illegible] の [illegible]

[illegible] 田の [illegible] の [illegible]

[illegible] の [illegible] 白 [illegible] 秋の [illegible]

秋中

秋 [illegible] 山 [illegible]

[illegible] 花 [illegible]

[illegible] の [illegible]

[illegible] の [illegible] 秋の [illegible]

[illegible] 萩 [illegible] 行 [illegible]

人の [illegible] 花の [illegible]

とまりて

萩 [illegible] の [illegible]

[illegible] 我 [illegible] の [illegible] 花 [illegible] 人や [illegible]

秋の比ほひある所に女ともあまたすのうちに侍けるに男の
哥のもとをいひいれて侍けれはすゑはうちより
白露のおくにあまたの声すれは花の色／＼ありとしらなん　読人し
八月中の十日ころに雨のそほふりける日女郎花ほりに
前栽の[illegible]まかりて[illegible]につかはしける
言ふそて八月も[illegible]女郎花やそてといはす[illegible]たる
秋の田のかりほの宿のにほふまてさける秋萩みれとあかぬかも　読人し
行かへりをりてかさゝん朝な／＼鹿たちならす野への秋萩　つらゆき
[illegible]のころもを[illegible]　読人し
白露の秋の[illegible]
[illegible]せの[illegible]
秋のよの月のかけこそ木のまよりおちは衣と身にうつりけれ
秋の池の月のうへにこく舟なれは桂の枝にさほやさはらん　小野美材
秋の海にうつれる月を立かへり浪はあらへと色もかはらす　ふかやふ
天の川しからみかけてとゝめなんあかすなかるゝ月やよとむと　読人し
秋の夜は人をしつめてつれ／＼とかきなすことのねにそなきぬる
女郎花にほへる秋のむさしのはつねよりも猶むつましきかな　貫之
七夕に[illegible]　躬恒
女郎花[illegible]　読人し
[illegible]
又ことはりに[illegible]
女郎花[illegible]
[illegible]
[illegible]　枇杷左大臣

秋下

[illegible]　読人し
[illegible]
[illegible]　読人し
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

年してそいはとりたる時はいつまのかれそえ秋こそ [illegible] 忠岑

霜のたてつゆの [illegible] の花 [illegible] たかまくれ　元方

詠ゆてむき錦のたゝらし立田の山 [illegible] 読人しらす

あきゝりの山は [illegible] とちやむらん　源宗于

とゝろくは [illegible] かねてうつろふ [illegible] 読人しらす

くるゝよりつゆのこけ [illegible] 錦 [illegible] らん　友則

足川の山 [illegible] かみをもしるらん　是定

青木も見え [illegible] 紅葉の錦 [illegible] つらゆき

玉のうてなの紅葉 [illegible] のきえてまちわひ　是則

かくて山やまの紅葉 [illegible] 紅葉みてそ [illegible] みてけりかな

陣に侍る時九月ばかり伊勢か家の菊 [illegible] をうへて

かくりかわらいみの頃 [illegible] にて

枝 [illegible] のえて [illegible] 伊勢

九月九日 [illegible] のくらいみ [illegible]

菊の [illegible] そきおしくて [illegible] 月

かの菊をうへて植て

雲のうへにてみえける菊は天つ星かとあやまたれける　読人しらす

紅葉のちりまかふ日は月のかけ [illegible]

山風の [illegible] 錦 [illegible] やまあらしにて [illegible]

本のりしもみ錦のあやは [illegible] 紅葉 [illegible]

ほかにて [illegible] 紅葉 [illegible]

[illegible] 山姫のおるらんとみなりみちもとしたかまる　読人しらす

紅葉てふ [illegible] のしつくなりけり

是を [illegible] 秋と秋の [illegible] とたか [illegible]

あらしふく [illegible] 錦と [illegible] こそ [illegible] 源宗于

枝 [illegible] 秋の花 [illegible] そいひけるをつらゆき　忠行

菊の花 [illegible] 菊にさくことのつかへて

りまわい [illegible] まゝにて [illegible]

見れは [illegible] の花を [illegible] 読人しらす

吹風にまかせやる秋の月のかけ [illegible] 見れはこそありけれ

長月のつこもりの日紅葉を[illegible]

宇治山の紅葉を見すハ長月の過ゆく日をも知らすそあらまし

長月つこもりの日

九月の廿日比月ハおそく[illegible]也

冬

神無月[illegible]嵐山へ[illegible]読人〳〵

[illegible]山の[illegible]

冬[illegible]の門を[illegible]

松の[illegible]

[illegible]山の[illegible]

[illegible]家[illegible]

人[illegible]

[illegible]山の[illegible]

白山[illegible]雪[illegible]

[illegible]雪[illegible]

年[illegible]

[illegible]三吉野の山の[illegible]読人〳〵

[illegible]

天川冬[illegible]

冬の池の[illegible]

[illegible]山の[illegible]年[illegible]

年[illegible]雪とみる時[illegible]白[illegible]

[illegible]白雪

[illegible]白雪[illegible]

冬の池[illegible]

[illegible]月の[illegible]

師走の[illegible]月日を[illegible]

恋一

東路のさやの中山中〳〵に[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又 いりえわいまつ[illegible]白雲[illegible]や猶いふつゝて[illegible]詠人す

[illegible]君か[illegible]きやまと[illegible]田み[illegible]のむかし[illegible]読ー

すみの[illegible]知る[illegible]此文[illegible]わかれ[illegible]より

[illegible]人思ふとて[illegible]わハ

田川[illegible]猶や[illegible]

[illegible]海を[illegible]年の[illegible]つゝき

唐衣[illegible]ゆきとくれとうらみて[illegible]桂のこ

[illegible]山の[illegible]にこそ[illegible]平貞文

又 [illegible]月日[illegible]我[illegible]ー[illegible]讀人す

又 月日をそこ[illegible]君[illegible]の山の[illegible]けり

[illegible]白妙の波[illegible]猿丸[illegible]

又 人[illegible]波ハ[illegible]のまゝ[illegible]

女の[illegible]けるとて[illegible]わハ

[illegible]比[illegible]やむ[illegible]読ー

又 我[illegible]我ハ[illegible]

[illegible]行平

[illegible]わか[illegible]のたつ[illegible]讀ー

[illegible]の下[illegible]の人の[illegible]ー

うれしさ[illegible]けるー

[illegible]時[illegible]のこしのつゆきねハ[illegible]きー

君こひて我[illegible]やハー

我[illegible]のこそて[illegible]ー

[illegible]人[illegible]ー

別とは[illegible]やまとも[illegible]ー

[illegible]の海[illegible]我ハ[illegible]ー

[illegible]きー

[illegible]の[illegible]ー

[illegible]ー

人の[illegible]ー

[illegible]ー

[illegible]の[illegible]に我と[illegible]信濃

[illegible]讀人ー

此二

人ことゝて [illegible] ありける [illegible]

我 [illegible] 川 [illegible] 人とも [illegible]

足引の山下とよみて [illegible]

[illegible]

[illegible] 秋 [illegible]

[illegible] 大将

[illegible]

人 [illegible]

かくれける人の [illegible] 書付て [illegible]

鶯の [illegible]

我門の一村薄 [illegible]

[illegible]

天の [illegible]

秋の [illegible]

高き [illegible] 山 [illegible]

我立 [illegible]

秋のよ [illegible]

[illegible]

足引の山井 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 年の [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さて女の父とかれこれといひ[illegible]世に[illegible]わい根なるに

ありのまゝに此よしを[illegible]けてつかはしける

三たびくちおしき[illegible]なくなく[illegible]

我はなくなくの山にわけいり捐[illegible]父なげき

かくしける[illegible]此[illegible]けしき[illegible]母

[illegible]

[illegible]世に一日も[illegible]なく[illegible]

[illegible]女のほどもうかりければ[illegible]

[illegible]

わが[illegible]此山なるのわけても[illegible]

[illegible]山路を迷はれ[illegible]の門はすいけじ[illegible]

[illegible]筆のすさみに月日を送りける[illegible]

いつまでか[illegible]おやにそむける[illegible]返し[illegible]

返し　見よ[illegible]此[illegible]立白妙の[illegible]

見川の山[illegible]思ひ[illegible]

人の[illegible]

[illegible]

いつまでか[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

返しの[illegible]

段三

むかし[illegible]金坂山のさとなる人[illegible]三条右大

時く見えける男の[illegible]のさと[illegible]書つけゝく

[illegible]

[illegible]右京の従

大納言国経卿の家[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さるまで旅笑えん宮に落ちて田よ鉢にわかれ落て
東のかた旅けりし山をわかれてふもとよりかや
と云山をこえてつゞける
かはくらのあやまを出しくわうりつは二荒山をうまぬき旅実
其内の麓を五郎いゆうれ二荒山のさきとみりけり渋谷
あまくりの神のあし立けるさうしまりの方のみけそ旅よまる
まづよりて行きとあるをはさとりえみてようにいつき見むし
の三きいなのえみてよは跡わや入れし人の三行まあせ
女の浮し絶とおきてとらしつゝ牛まとて
すき心のをもかのあかれすそ夜三日のまれうとふやうも人二つまる
然ま四三かてあか神との子ま三てう湖すまや中禅
寺より子つを人まこゆき力の船の玉りやとまうまし三ら称
立岩の子湖て宮院のあたぎさまゝつゝりけ
言体まられとの湖（湖の峰ぎの）のかうもまいの名て見て分されりはすき
宗のまし宮さ大きうま然きいうすゝうかゝ人え方
あら然野てやミ御け山のとよあるそ宇都の知る戒仙法師
いその海ま塩やゝ分のまちき吏ずしいまれと字尊和記
ろ衣ろてたのまのはずれに人のつゝといゆ玉地もつ旅遊
かりつきそ行る女の心をみちまはわゝつゝる
いつこゝ立ろれしてみゆよそ宣ひらくみくの名わのちけり
文たくし行る女神久なそねつえんといゆつくろふ
とゝく孫父わく
八いのましやすく行ちよ祢のとこ方に宿とらくまて枇杷し
そかまとみろとかまは家としそみつてゝて神やめえとにのん信を
尊まし我たけすみつきもとのうちいひぞ見思つらすれ ろ守らの翁し
春まう梅ゐうろは枝山とそてうて信は二人まな思ゝと
まわうとゝしそのまりうと色もそとして
世とよりまけまくう山をすいあわれ玉あわうのきうけ言二の年し
人のいつくかみゆいわれちえとしつ人をはなえ
人三わみすうね丑じの緑とい神てけそれ平人ろけうをへ
四段のひるくまおまうかまとゆ行けの人のかうとのか
玉珠はかつにへ入るとて無のくちる然ていかけるいうらかあ
はまの国の名まいつてゝくゝは三十さく火の下はうれ付曲親在
渡川まうて移ぞてめぐりのをとふゝ比寄や何まり話

なかなかにあふせはきかぬきくもすとさくやあひみるのちの 読人ー
これやこのゆくもかへるもわかれてはしるもしらぬもあふさかの関 蝉丸
わたのはら八十しまかけてこきいてぬと人にはつけよあまのつり舟 右大臣
つくはねのみねよりおつるみなの川恋そつもりて淵となりける 陽成院
みちのくのしのふもちすりたれゆへにみたれそめにし我ならなくに 源融
院のやすらかに前つゝ手すゝて
思ひしは我も入てすゝくたれぬやるゝくるやとも引ゝき 右大臣
かよふの女うりの人てのおもひをきもして声のりしもきくらむ
我こふいとくやや我わらん神の使のゆくさまは 読人ー
小山田はまつくひにそいの池のそゝのくゝ ー
おもひのうち女なせは代のつきてつゝすゝて
うちよせてすきるゝ逢こそゆくものゝわか途を 重之
逢て
関のそとめのはの木はおもひのまゝにしも新と云ふ 読人ー
ゆくひとの世は経とそ移て
新古今の逢やすくの逢ともと逢と言ふ 読人ー
軍の一つの代のそて代々しらなとゝそて

呉門の山田は代なつら他てよるをそ千代忘るゝはなる 読人ー
神宮とたのむしの言てゝ門を所をいへ世の伝博
方とてかくてのいらの代のえのつて
かくせ代方いくかくて表に千すいかりのあらふらゝ 読人ー
位の名代をは逢うかなりのそて情のねよきとも人をゆくと
大政しえつところへやや舟の早えくてあのそーる 頭隆ー
浄花に海の心をのへいつとしてりけれは
雲居のくもは代ひて人へとろくもうつせ人ゆきて女
わかき川わかれてもうき舟の心うきてつかきの 右大臣
秋風の吹すつけてにとそはかの萩の色すゝいさ幾をき 中つかさ
今もそうらきそにけ菊の花のさきそといふ萩のなき 読人ー
いつくいまそすいの池のそをとゝかけてもそくかきせめ ー
えつの事とそかくの山代の鄙とへいつれもうつたり 人ー
折をもて日はいすの葉もそゝくも人へとふも人 ー
いきてすかのゝこすりうせられいくいつきらへて心とゝせや 左衛ー
宮といのゝは代秋もつ色水けとみへはいれぬとうけりける 読人ー
思ひそてとゝさゝ代々山のいこのてくまてもわれくはいにしあり ー

昔[illegible]二千年[illegible]

君[illegible]の[illegible]大[illegible]や[illegible]

[illegible]思ひ[illegible]人[illegible]

◦池[illegible]題[illegible]の[illegible]

一 [illegible]

[illegible]や[illegible]海の浪[illegible]海[illegible]伊勢[illegible]

[illegible]人の[illegible]

女の[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]

◦[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

一[illegible]

て[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

◦[illegible]

[illegible]

一[illegible]海の[illegible]

[illegible]

志の[illegible]

[illegible]

一 伊勢国[illegible]

[illegible]

[illegible]令[illegible]の[illegible]

◦令[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

て[illegible]

ありそしつきといひすてしその山にゆきとこそいへ人ゆきてみる小野頼長
人の詠したりけるに門よりのせなしかへして庵の
まへしはなそてつてさへやかはひとひかりそれわい
いふやまと人のいひしらかのあふさかにて神のまへに門詠人しらす
（古今）たのめつゝあはて年ふるいつはりにこりぬ心を人はしらなむ （又言也）
しらをしてしらすこのえ見えぬかれよし読人しらす
思ひすられけり人の詠し侍て
ゆめやとも思ひてみるのをいつはりにいはしとてあはせむとそ
（返）いつしかと御せらるれかやまてもいのちよりひけかなし
いつこやくもらでまち宵の中にたつわか身かな

恋六

|いつはりのなき世なりせはいかはかりの事のはうれしからまし
いひもてのわか庵にものおもひしそてのうへにあかなくに
月まちに行ける色のわいかにまさりてとおもはゆかし心をき山
日高くのほる人の思ひはゆかれとつゝそ君ひとりをとのかなくに
にけるけふまてかへりこぬ
あはすてかく我人にわれないかてとかゝのめてし夜はいかならむ
我身からへうきよのそらのなかめつゝあかゆくのみてるくにのそらに
宮川のしほさかしていて世の秋のはてしもなれし詠人
宮城野へつてせきこそつくしるかもしれなはやかな
いかにせん耳なし山のくちなしにつゝましくてあらんと詠人しらす
|恋しとて又おもふとといふことはよの中にもあへきなれ
|君か世をまくるすかたのいもせ山いかなるをしらて詠人しらす
|いくよをかへしわかおもふこゝろをやよしもしけるなさか
人と君のわかれしくてあひくにつけてみるらんなかの人に
思ひいりてしのふは又いやら手すく扇をまちこのうちに
うかれけてつらしかる

|伊勢屋のつくりにたちよるとき君かこの代は小松にかゝれるらん 左大臣
いまさらにわかのみしけるまつ人のこえやすくやのきゝにけれは詠人しらす
浅ましかきりの秋もかわらて十月ばかりてここに東をわたしてつかはし
冬されと君か垣根にさけるしらきくの花とこそ見れ

雑一

|さかの山みゆきたえにしせり川の千代のふる道あとはありけり 行平朝臣
かきすゑの御代の人をわすれぬ秋にはかりおかして昔の日の事をおもひいてゝ詠める

ゝるまてしたまうは秋のなかはの比くまなきに世をすてゝ年ころはすみける修行尼

こゝろありて家人業人のかのゆかしきの多い我これめゝけむ年ころき

ての月をまつものゝ侍りけてめくり別りつる人とつるかに住みて

住まゐの今はなかれ山里にて（アマシ）過こしやきやとりをそへん昔年に

あり月の山の端より出るのまつれ人と物もなかりけるに

なきをまちつゝあはれ白川の家にて濱へてかへりける人のさま

　はこりかゝりて

一　白川の御代にてみかれかれとみえけるに人いせしゆきをやまたつき

こちらのこゝろつとめて

蓮華王のこゝそれ人いはれてんせしいちのゝまかりて院へ

行幸ありて上けるにつけてそのえそれねとをかて

此事ゆきせさせてそこにいる山子け時つくまかり法師

御院の前はんしてかゝせ給てりて主よりけり時の院の中

読れ物とけりそつにそけり

一　昔まうて行の御かきそみそゆみ上てゆかゆかに侍りし

三人のこ読みてえらみけるに人のまつりて人をみそよ

侍りての大伴かゝわしき侍りて（つけ）みかしはさりて

一　日ひるるけれの其ら人ろろして卑しりくろかし後ろきは

その神とまうにつけてみてそゝりとゝりけり

なりせんてよてこのみゆう代見よんひゝろ五つとろく住しもかへ

人の身れいろやえしめろねとしみもとまうてなりてゝかよりの至極相尽

一　豊後わたはのてゝそて新月ろるてとゆけりて帝内にて

てかの国の前の者々の御せてゝいはとて一内にけりる

一　年ゝえてにうるまゝあそいはりいふもたりて人ゝえまし侍りきこそは

式部のゆきのみちまの思いきされと近江（いつみ）のもそ月かは至極し

小山田代かまるりしもこのてとしとひさまりにけまかる女のて

もろもろのいかりてあけ秋みけるみい人をこまもとまれ見えて至極し

まうちれとそあいうまいわ際ゝかくはと思わそはさそ相尽

雑二

帝おりゐさせて近江の守寺にこもりてそ侍りけるしおのたより御院の

二位山（にて）のことにそけるとはこゝえ行きをあそ人の告けりうそわく

とひそつりけり

一　大坂の山つ行をはかきれ哉をききうるゐに年たれ行きてけりのとふきて

人の牛ところそ給ひたりしそてゆきわらいいのかゝりけり

まつのうへに[illegible]や浦[illegible]のいはひ[illegible]亭子院のこ

延喜御時小野好古朝臣[illegible]とありて

又こゝをいくかの代には年をへて[illegible]の[illegible]を待て[illegible]といふ人　枇杷左大臣

かはらや若[illegible]此山の[illegible]には[illegible]けるを[illegible]読人しらず

[illegible]川の[illegible]て[illegible]君か世は[illegible]のわたりに[illegible]なき[illegible]大江興俊

やまひの[illegible]やまとも[illegible]や我[illegible]れ[illegible]さては[illegible]さ　小式部内侍

若[illegible]の海の山[illegible]我[illegible]てやさしくん[illegible]

ものゝ[illegible]をいつかなる[illegible]のゆてて告なん読人しらず

霞の[illegible]と神[illegible]けて[illegible]と海の[illegible]て

[illegible]とこそ神[illegible]れ世[illegible]の[illegible]けり

[illegible]さきすら[illegible]のゆとも[illegible]と来[illegible]

[illegible]のめ[illegible]此[illegible]のなしく[illegible]て[illegible]を読人しらず

[illegible]の[illegible]の[illegible]こ[illegible]の関を[illegible]

山の井[illegible]けりける

[illegible]ともやすく[illegible]さてんらの井[illegible]

[illegible]根[illegible]山の[illegible]ね[illegible]

[illegible]人[illegible]の[illegible]れ[illegible]

[illegible]をたて[illegible]根て[illegible]わ

[illegible]て[illegible]つねの[illegible]やへを[illegible]読人しらず

子[illegible]て[illegible]堀川の[illegible]て[illegible]十年

の[illegible]て[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]の志[illegible]て[illegible]怪事[illegible]て又

[illegible]に[illegible]女[illegible]わ[illegible]

[illegible]の[illegible]の門[illegible]て[illegible]亭子院左大臣

枇杷左大臣[illegible]て[illegible]を来[illegible]わ[illegible]

て[illegible]家て[illegible]わい

我宿とたのむ[illegible]のこと[illegible]て[illegible]保子

[illegible]の[illegible]の[illegible]ける[illegible]

[illegible]の国[illegible]西宮家[illegible]て[illegible]との

[illegible]の[illegible]て[illegible]て

[illegible]てもとまらね[illegible]たのめ[illegible]や[illegible]読人しらず

雑三

[illegible]の[illegible]て[illegible]日の[illegible]て[illegible]と

て[illegible]て[illegible]遍昭[illegible]人の告[illegible]わい[illegible]

三しもそひしかな

一 いはのうへにたひねをすれはいとさむし苔の衣を我にかさなん　小町

返 世をそむく苔の衣はたゝひとへかさねはうとしいさふたりねん　遍昭

[illegible]　敦忠

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

三 [illegible]

[illegible]白川と[illegible]

[illegible]

一 年[illegible]白川の[illegible]

一 [illegible]

[illegible]の国の[illegible]

[illegible]の三代[illegible]

[illegible]

田村の[illegible]

[illegible]の中[illegible]

この[illegible]一本[illegible]

風[illegible]

[illegible]山[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]の[illegible]

[illegible]

一 [illegible]の国の[illegible]

[illegible]

一 [illegible]　元吉頼光

伏見[illegible]

ぬすみやすきの事し又源氏ハ衆子ともいひもの山法へ｜

雑四

我やしのひかりしてもなくかきてかれ　やゆいのかき｜

国にてく道にけを母に付けて頭と　これら我ハ法人｜

そなのく氏はみちの神てすてこおれんな仏まこてゆかハ｜

明しくしゆやうちのてよわかことわやまりて今の比し｜

ういてまちみ代山の桜花ちらそてもくきくのかのさ｜

人の色のしこまりて心しにので居てけりの身とこそ人かと

やすて久しうまりてこ汐のかわいめてこのもりのハそらそくろえ

よみてとらいつらつけり

今えと心のやうと命しそむつてなるへしさくさみのとし女のて

海のとこなかのとそしかうなくかけて心とまてとものか法人｜

女歌かしらし竹のくてかけてつつうる

ころたえこてかれなら門竹のいられの世てハ袖と芸き｜

ちれく代ニわつこそし如何へニ思ひしのかなれのをまの伴を

こそ行ろ人比しかなら山田の花て付てきくらう

冬かれのくい対いめくなれのおとたのそう空かれめるけりの法へ｜

こゝきさの山の花の風なしことのたくとうかかしかし書是

此十月の時ならにはのみなの事も立てりけりと見えけれハ

かりくつとそて

しふまて時雨てられかけられそは言らんとえやハえらく法へ｜

十月いろ雨らしふかわかれ小山の比てこれかれ地名法し

旅よりいまそて見へき国名てのとまり居のてしかくまつ所これのり

雑別　羈旅

みちの国へ居けるんてい火ならとつかはしまてたけける

かくくしそてくみの桜かくハ山さむのと思ひて身四季是

武下野国に居けり女に誌をうてつかはしけり

すゝむさりくて物ともす絵あこそかるそけをとらへてそ古法へ｜

信濃へ居けるてくまかゆつりまし

きみのなかの母のつてかゆるわかハすの衣のころやなりぬる人まかり

ちゝ行けり世るといかなる事の侍りけん、こけりてとこそ

まてまゝくの国へ居そわい

ちゝ手て東てりてくの書の身ハ清かゝ十九こそたの山とも

列とありしいゝてまてしいはもうし山ちかと法せらるる

今はとてうりくまうのうへのゝきゝて都よりまかきこて
桂のみこにかはりて宿つかうまつりて
かくて守の国のしもいまう見ゆる人のてとあるわれ経へし
女別当みちのくの国へ下りけるに
君をのみ思ひこし里の山へりとわかれの山ちかゝけれやゑもしらぬ女
我らのをもひつゝみえそらはいつくまてか此山にまかせいかまし　読人
なく人をけらくとつたへけり
君か代はかきりもあらしの有らもあるてきゝよし世のときはなく　伊勢

羇旅哥

あふ人もなき都にてまたの国へとて河をわたるとて
ろくと川きよせんやにうかゝへん世にも住我身を思へは読人
みの国へ下りけるにきをゝて
山里の草葉みなあひとりにけりなるをもすみまるくことゝきみて遠江
土佐よりのほりける舟のうちにて山のはもなくて月の出し
都にて山のはにみし月なれと海よりいてゝ海にこそいれ　つらゆき
法皇宮の滝御らむしける御ともにて
水ひきの白いとはへておるはたは旅の衣にたちやかさねん　菅原右大臣
ひくらしの山越侍て
ひくらしの山ちをくらみさよふけてこのすゑことにもみちてらせる
初せへまうてゝ山のへをいてまかりける
草枕いとなから山のへて白やまふれや有らん　いを
ふるさとのまゝ子不と
えりせとにあらはいふゝ此からの此あてゝ此をてゝ
あふかたの人の詞もみけるなるのみちのゝ実て女の
亭子院にてけるめく
みわ此宮の山ちとりくへいますとあるなり　素性法師
土佐より任はてゝ上りけるに舟の中にて月をみて
てる月のなかるゝみれは天の川いつるみなとは海にそ有ける　つらゆき
菅原ちうこもの〳〵ましいとゝくものまゝしや　亭子院御製
松山とへいとこや御のへの白ありけるやうそらん　素性法師
古今家集
萬代のはしめをはかる白菊をとしやまつつらん　伊衡
秋の野になみせるみちの花かはる家かなき　躬恒
ちよやよはの山のかすみをやこしまれ代のみなん

人のうらみすゝめて萩の花をとりて
ちりすきたるのをさしてかゝれし世のなかやまことならんうたへし
年月かさなりて女檀越の行ありけるとかきておはれ
かくてつゝけゝる
百とせもへさせたまひておもひつかしたまひしときこえたまひけるや（惟済法師）
けふこそとおもひてたまふ万代よ花の都といひける（保輔仁教）
きのたかすけのかたはらにおのゝ代此比なりけるよしを太政大臣
院の御たちそて文のみことを書きたまひてせさせけるに二つ
けのこより
かのえ代なくても知もまつ代の中きんならはしをうけたまはり

義懐亭

先手かつけまうて世中をたゝしくつかしける（行）
こゝろをつくして世をおさめしかの比みかとの御時三条右大臣
おほせられて待かの女のまゐりけるとしのおなしき
てもとの御名は
女さかりにゆくゑの代くつしつ遊てあるに世のみさき宇陵大臣
さきの御服嫉けり時より後のきこえて書て大に進ける
是深の二年をみにてみる時にうるまてもれるかにまうけゝる高祖の是
二たび年の蕃あまりて人の割やしなへ代くたるらん出家

後集ハ村上天皇御時也 天暦五年（辛亥）十月晦日於昭陽舎撰之
為蔵人左近少将藤原伊尹別当
寄人 讃岐大掾大中臣能宣 河内掾清原元輔
学生源順 近江少掾紀時文 御書所預坂上望城 謂之梨
壺五人

拾遺和歌集 抄出

春

春たつといふはかりにやみよしのの山もかすみてけさは見ゆらん 忠岑

昨日こそ年はくれしか春霞かすかの山にはやたちにけり 赤人

吉野山みねの白雪いつきえてけさは霞のたちかはるらん 重之

鶯の谷よりいつる声なくは春くる事をたれかしらまし 千里

わか宿の梅さかりにて三吉野の山の雪とも花とも見られ 読人ー

鶯のこゑなかりせは雪きえぬ山里いかて春をしらまし 朝忠

うちきらし雪はふりつゝしかすかに我家のそのに鶯そなく 家持

冷泉院の御屏風の絵に梅花ある家にまらうときたる所

我やとの梅か枝見えやつらん思ひの外に君かきませる 兼盛

あすからはわかなつまんとかた岡のあしたの原はけふそやくめる 人丸

春の野にあさるきゝすの妻恋にをのかありかを人にしれつゝ 家持

いはきさいの宮にて[illegible]人の[illegible]けるに[illegible]

の[illegible]前なる[illegible]に鶯の鳴[illegible]正月

子の日つかうまつりける

松の上に鳴鶯のこゑをこそ初子の日とはいふへかりけれ

千世まてかきれる松もけふよりは君にひかれて万代や経ん　能宣

つ[illegible]のには春の[illegible]かたや[illegible]　読人不知

明またきおきてそみつる梅花よるの間の風のうしろめたさに　元良親王

[illegible]のこゝろの[illegible]匂の立　躬恒

[illegible]山のは[illegible]　読人不知

[illegible]　菅家

春[illegible]

[illegible]山田の[illegible]　元方

桜[illegible]ものの[illegible]　読人不知

[illegible]花と[illegible]　[illegible]

[illegible]桜花[illegible]我や[illegible]　読人不知

[illegible]宿の[illegible]花さきて[illegible]

[illegible]桜花[illegible]　恵慶法師

[illegible]花の[illegible]　読人不知

[illegible]山吹の花の[illegible]

山吹の[illegible]　[illegible]

[illegible]山吹の[illegible]庭を[illegible]　読人不知

花の色をうつしとゝめよ鏡山春より後の影や見ゆると　是則

春霞たちわかれゆく山道は花こそぬさとちりまかひけれ　読人不知

年のうちはみな春なからくれなゝん花見てたにも浮世すくさん　ー

花もみなちりぬる宿はゆく春のふる里とこそなりぬへらなれ　貫之

夏

[illegible]桜[illegible]蝉の羽の[illegible]衣[illegible]　能宣

花の色にそめし袂のおしけれは衣かへうきけふにも有哉　重之

夏にこそ咲かゝりけれ藤の花松にとのみも思ひけるかな　ー

住吉の岸の藤なみ我宿の松の梢に色はまさらし　兼盛

多古の浦の底さへ匂ふ藤なみをかさしてゆかん見ぬ人のため　人丸

卯花をちりにし梅にまかへてや夏の○に鶯のなく　之誠

卯花のさけるかき○はみちのくの籬の嶋の波かとそ見る　読人不知

神まつる卯月にさける卯の花はしろくも○かしらけたるかな　躬恒

神まつる宿の卯の花白妙のみてくらかとそあやまたれける　貫之

家に[illegible]郭公[illegible]　庶縄

さ夜ふけて寝覚さりせはーー人つてにこそきくへかりけれ　忠見

二声ときくとはなしにーー夜ふかく目をもさましつるかな　伊勢

[illegible]淀川の[illegible]　読人しらず

[illegible]宮の[illegible]　能宣

[illegible]　読人しらず

[illegible]の海の[illegible]　忠見

[illegible]　貫之

[illegible]　読人しらず

[illegible]の山の[illegible]

[illegible]　中務

[illegible]山の[illegible]　読人しらず

[illegible]

[illegible]山の[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏山のかけをしけみやたまほこの道行人もたちとまるらん　貫之

松かけの岩井の水をむすひあけて夏なき年と思ひけるかな　恵慶法師

[illegible]川の[illegible]　読人しらず

[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　忠岑

秋

秋はきぬ[illegible]　読人しらず

河原院にてあれたる宿に秋来といふことを

八重葎しけれる宿のさひしきに人こそ見えね秋はきにけり　恵慶法師

秋立ていくかもあらねはこの寝ぬる朝けの風は袂涼しも　安貴王

天川とほきわたりにあらねとも君か舟出は年にこそまて　人丸

[illegible]　読人しらず

七夕[illegible]

[illegible]七夕　[illegible]

[illegible]　読人しらず

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八月[illegible]

[illegible]

[illegible]

あふ坂の関の岩かとふみならし山たちいつるきりはらの駒　高遠

あふさかの関の清水にかけ見えて今やひくらん望月の駒　貫之

[illegible]こしの月の[illegible]　順

前栽を絵にかきたるところ

[illegible]とてしのゝめに[illegible]　伊勢

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　好忠

[illegible]　能宣

[illegible]　読人しらず

[illegible]　読人しらず

[illegible]　恵慶

[illegible]　能宣

天暦御時[illegible]大井[illegible]

紅葉とて[illegible]風の[illegible]　延喜御製

[illegible]紅葉の[illegible]なりけり

[illegible]

[illegible]

[illegible]大井川[illegible]紅葉[illegible]

[illegible]

[illegible]　重國

冬

神無月時雨[illegible]　読人しらず

[illegible]立田川に紅葉[illegible]けり

[illegible]

立田川[illegible]神なひのみむろの山に時雨ふるらし　人丸

[illegible]

[illegible]冬[illegible]

[illegible]冬の[illegible]　読人しらず

ゆつりは淀のまゝをせけきゝわいとけんこまつく少三ゟ今ゟ　益蔵
冬こもり出かねたるはあけほのゝ去年の軒は今かへるなる　淀人
ころ行の杉まて山鶏冬ならはいつの氏様や里に何かるらん　たちまけ
冬されは沢の汀の氷おれ川帆しほりもせぬ与のむせ　夜刈
浦ちかくふりくる雪は白波の末の松山こすかとそみる　興風
都にてめつらしとみる初雪はよしのゝ山にふりやしぬらん　景明
山のおもに雪のふりつもりけると
足引の山井にふれる白雪はすれる衣のこゝちこそすれ　伊勢
　屛風の画にこの白山にてゆけるなり
これそこのこの山はしら雪のみはつくしつ汀に今は　佐忠頼
見えわたる松の色白き山寺世つかわの雲もふるらん　益蔵
足引の山路もしらす白しの松も軒にしら雪のふれるは　人丸
雪のうちしけきは見えぬ山下風しちらちりける　貫之
梅もまたしらぬ山雪は一とせ二とせのまゝ　千益任
　屛風の画に佛名の所
なきふる年まきかりや世はみる冬の衣つかぬる　纏楓
春風は和泉の鄉し梅の木のかくしき　導師

けふそ別れ
雪ふれは山のしらふへるあまの花のけしきもて
つみふかく我ものつもる年月を送りしこそはしつらん　益蔵

賀五

松て千代の春に御使よりて時をまつき三うち　まさ
千年やうき年ある松の枝に松はけふ千世は子代の又いまる　綾雪
かまつ野の玉のとこ山鶏のませは君か代の松や　淀人
晴空春の風千代の七代し若や汝年の四子れきしの
子代作て詠みつく三うとつけく行けり
明まれ重子の思て入るきしは千世の日つきの花咲今り　文福
若菜宗実の七代
てにをの杉は七かし松まての枝れ枝と思ふなれ　益蔵
若菜卿信文脈く作る竹の代なるとけり
むねわかつりしもをそれぬれ君か世まて　源順
天暦の御門　御手つからしけるをかしさを寺し　金泥寿
命御手法華経を書て供養し給ひて此巻数作りて
らくせてきさらき入て又御後の女御のあるきのに

わかくのミすかしてつしてけふの世より

山しなの山の岩ねに松を植てときはかきはに祈つる哉　兼盛

よろつよ[illegible]の山に（かひある）[illegible]　仲算法師

しかく竹の杖つくりて作りけるに

一よに千代こもれる杖なれはつくともつきし君かよはひは　能宣

[illegible]の深の[illegible]をとくるに[illegible]ちとせとくわかん　もとすけ

七十賀し竹の杖とつくりて

[illegible]杖なれといまそ千代の坂の為也　能宣

[illegible]竹の[illegible]　坂上望城

[illegible]

三千とせになるてふ桃のことしより花さく春にあひにけるかな　躬恒

[illegible]千とせ[illegible]桃の[illegible]　三条太政大臣

三月の[illegible]　読人しらず

[illegible]侍りける時[illegible]付侍りて

[illegible]　[illegible]

きみか代ハあまのは衣まれにきてなつともつきぬいはほならなん　読人しらず

別　六

[illegible]別ちて[illegible]　読人し

[illegible]人別れゆけは[illegible]こゝろ見ん

ゆく人[illegible]扇つかはしける

別るとて[illegible]風とやならまし　能宣

[illegible]人のとろ関山すてて[illegible]けるとて

[illegible]　貫之

大江為基[illegible]東へ[illegible]下[illegible]扇とつかはすとて

[illegible]　赤染衛門

もろともに[illegible]三川の[illegible]

[illegible]下[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の杉原[illegible]　[illegible]平

武蔵の権守ミつやすくたらせしまかせのはなむけしまつひさく　為教
旅ゆけい袂をわかれし山のあけくしてのこいたにはを忘れん　読人し
猶ミてもわかれしこひしやうらの花橋をまちけるけん　兼盛
あはれたミのてらにかけりけいみえしいられわかれさけり　元之
題読人しらす侍りて良相の陵しとらのしらけりし
駒むかへの侍りけると聞きて
駒むかへにまかりたるえきけいそのむかへをまかりける伊衡
せら花鏡宮せせのまそへこことをとや　能宣
帥伊周くくたりけるに竹こ内るしもらしらけり
思ふとも行の山のるれとこれゆくへく新なりけりしられ
かゝれ侍りて在りゆふへこそ侍りける
亭子院宮の御ゆくへこそしまて　一條太政大臣
そのみちをゆくへきかなれまかれにゆけり時にのなりしみて
侍りけ　侍る
波のくて見えし小路の所られわかれて君かまつわて金思
まかりて
わかれゆくみに都こしはちやせん　人重ん

物名七

二月くい鶯のなき侍りける枝を折りわいことといへそうまんとする　読人し
さうひ花の名とをいまいわへにミなくらやまに妹そあそん
わさき読のいやま花も打りれのなの花まことけすけミ
つまもえ行きてこらうへん田代かいえ我身やまんとする　読人し
わさきれ桔梗の花のまへわかれて此いうへのわけかりける
くきのむ山川いきのかあわを浦ちかきけい御をそれかいかん　忠岑
いまもの住吉のゆのかけきなりつわの家い侍り心こさのいきし　元之
かれさて世中のよしあゆこその然しいそてかめまのあ梅の寄らん
とへのて咲くてしかはこれまてそれと花を返してものとへのしらのミまれ　忠岑
かくきて山に入るを我身もわかれへ今のくつん事しかゝ侍　読人し
ちのるいますのかさらそてれこのミ中におい十りのかきうし
くきまつ花てこれみすくるかやせるか梅桜のミやはミしんすけミ
足引の山下水にゆるわかれつきの木すかはけ我かなん
ひとりとまわれ君すわかれよへてらこてかやくをまとひまさる返し
思君やまさすてかけかけり散らん花を白のひくへ風てい松もかたわれりとすけ
こさらの咲きちるをせんとも重てらとらちに子か桜ま花くて輔相

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

松風の[illegible]

雑上（八）

世にふれは物思ふとしもなけれとも月にいくたひなかめしつらん　具平親王

法師にならんと思ひ侍る比月を見て

かくはかりへかたくみゆる世中にうらやましくもすめる月かな　高光

ありあけの月の光をまつほとにわか世のいたくふけにけるかな　仲文

叡山に住て侍りし[illegible]

[illegible]　素性

水に宿月と云題を

[illegible]

権中納言敦忠か西坂本の山庄の滝の岩にかきつけ侍ける

音羽川せき入て落す滝つせに人の心の見えもするかな　伊勢

大覚寺に人〻あまた侍りけるに古き滝をよみ侍りける

滝の糸はたえて久しくなりぬれと名こそ流て猶きこえけれ　公任

琴のねに峰の松風かよふらしいつれのをよりしらへそめけん　斎宮女御

松風の音にみたるゝ琴のねをひけは子日のここちこそすれ

[illegible]

をのへなる松の梢はうちなひき波のこゑにも風そ吹ける　忠見

雨ふると吹く松風はきこゆれと池の汀はさわかさりけり　貫之

延喜御時大井に行幸ありて人〻に歌よませ給けるに

大井川かはへの松にことゝはんかゝる行幸やありし昔も

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

河原院の古松をよみ侍りける

ゆくすゑのしるしはかりにのこるへき松さへいたく老にけるかな　源道済

いたつらに世にふるものと高砂の松も我をや友とみるらん　貫之

ここにしもあまた此道の松原は浪にとよもしける中にも為憲
をうかれここに[illegible]てきこしめすけるの[illegible]さきてや[illegible]
山寺にこもりける時[illegible]の月をわれ
わすれけりいかの[illegible]明かれと人の[illegible]　[illegible]時
天暦の御時八月十五夜に月[illegible]の[illegible]
ころありけると
菅原のうミゆかりある此[illegible]此江の月へ[illegible]きえて
大江為基の詩にもうしまなてきこえけり詩のつらう
けり涙をまなこにたてけりけり
久方の月をみなし[illegible]のまなこ絶えかれけれと[illegible]人の
まゝに[illegible]月のかげをかすゝて桂[illegible]
法性寺[illegible]月[illegible]えけれしなほくなくて[illegible]
菅原[illegible]月の[illegible]堀生
すゝ[illegible]の[illegible]母のもとにわけ
久かた[illegible]月の[illegible]家の風を[illegible]せけする
月[illegible]夜は[illegible]
[illegible]時[illegible]人[illegible]し

[illegible]けるに
[illegible]夜[illegible]子[illegible]て[illegible]し
[illegible]けり[illegible]て[illegible]けり
[illegible]
[illegible]とも[illegible]を
[illegible]三[illegible]世の[illegible]けり月
[illegible]けり[illegible]の世[illegible]し
[illegible]平貞文
中宮長恨歌の屏風に
[illegible]をも[illegible]てて[illegible]
大[illegible]の[illegible]て[illegible]けるとて
[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
天の海にくものなみたち月の舟星の林にこきかくるみゆ　人丸
とよめり

ゝ河のせのあさくハわれハ思ひつゝちらされしら河のふかみてし

なかれゆくみをもはきく春日の野へ北山とかふかきつかれハ

いつしかそんくて我もやミての心もあしつかん

伊勢の甲斐守ニ申て

別れの海ニ船のうちにていつくのあかきのすみて塩やくらん

小一条太政大臣のわかくておはしける家ニ侍ける頃鶴の鳴をききて

なかれても人にいたからいそ芝のもとの人しるちよ定し

雑下　九

あるかたにて春秋のつれ〳〵に

元良親王

□夫たゝの枝にやとりしせし　親みつけしられしこのあり

春いてゝ花のひとへに咲つゝ我のみわハ恨れにゐる哉　読人不

白雲ハよそに見つるをいつしかも秋の下紅葉のえたに　伊衡

勅なれハいともかしこし鶯の宿はとゝはゝいかゝこたへん

かくそうせさせけれはほらすなりにけり

よの中ハ車のわのことくにて

ゆきてみる世と思ひしをよしなしや　仲文

一家のあるしの

難波江の道の荻毛のすゑわかは国ましの詠やうる人あるらし
まちしえらそ　よある女侍りけるよしをそしく侍りける
男のありとりてあやしき事し物てたしありて侍り
けりしゆゑけるて年比は真にあく成りつる事をていひ
つかはされは男のいきく侍りる

た
君すらそありけれとやつてしけて難波の浦に住に
ありしよく人とそて別れ人はり難波の浦は干きこき
作歌あまの釈し書集よりみえとこそしるとして
かんかの形んをゆくまてあやしきはうえこそは地のあくかしたの事なく
地獄のさくえらかとこそ

三途川を川まさり見さ沈みかゝりて侍りて衣とぬきそてはうらん懸衣女
おやの罪を思ひしらぬて我子のおもひしほかりし人まうし母
山さまに分れし人のみかもし原抵三人ありときゝゆんおもしと人丸
わのさくされてまきいつも桜は川おをしのあかくわは妹すの菴へし
あはれそ思ふ人をもうし川岸すゝしやうり水はおかかるし
雨ふる日古塚川と誰浮らしゆくのつきやうきこわれ
昔よめやうきゆは誰れとて古塚川のゆるまとけり悲しみ

しらやなぎとこそ
白柳はいとみとりしあるゆゑいろのあはれ秋あるらん　仲文
天暦の時一条摂政兵衛人の歌よりて侍りけるしかのとよけて侍
若あをみけるまけよてすゝそて此手はさくもうり侍り
しわかいかのとよし侍りて
白波のしらやなぎ千もと侍りて江海のより見たる荻を浄歌
此伝馬の家にありて宮陰くの物くて侍らる時にらて居
松のはわれ松のねさらしと我もに侍りるとき侍りて
いりてあけてさらは浜の真江のの事しいのうにのる由おもひ

ぬ
とらへては侍しかへぬ浜十島十わたる江は浪の清て
伝まえの傍らにゆゑ侍りける時此国のてらみ此御と京
をあくて侍りけりしとやうたらわしのかを侍る
夢さきくつてみの時をとらこらわいては山川のすゞしれおは
いくしうとすゑそ霧しをみてしつかしもし
桜さくくさ海の浦ののうつかうと此うくうさくから
みちの国のあり此三浦からつと云雨まさけゆきかくゆう
とみきくりくきみてみつかてる

みちのく此みちの末のところつゝき邊にありとをしすれは誠の遠國也

廣義公家の御つかひに松いくのあつまへしおひかさる新
かすみ人の立田此山にへそわかし此名のやけれん也新
されなのきみこその山此なりとは世にし流の風かちかん
去君松ときかいの山てゆかしかへは人こその所すやうてむ八峯のつま
尺かけし年花てまつて行けれ
いまてのはかやし松人音あ山やさしらは絡する人ありすけ
あそくて言の心をはくそけと君に寄るるかいのるける

旋頭哥

ますかゝみこそ手に向かえて天の時はまとて我見るあなうすれ
ますかゝみそこにまつりてあなたの心の我見し人丸
あなたもさる見なれはたてまつるをそゝ見ん人まてしやえし
樺ちりのみ手まして見れとも君はみそて又あはんとやみかさ

長哥

やすみしゝわかおほきみのきこしめす鍾哥　人丸
あめのした我君の　きこしめす　あめのしたの　國はしも　さはに
あれとも　山川の　きよきかふちと　三心を　よしのゝ國の　花ちらふ

秋はの野辺の　宮柱　ふとしきませて　もゝしきの　大宮人は
舟なめて　朝川わたり　舟きほひ　夕川わたる　此川の　たゆる事なく
この山の　いやたかからし　みなそゝく　瀧の都は　見れとあかぬかも
反哥これより　見れとあかぬ　よしのゝ川の　流ても　たゆる事なく　又かへりみん

○あまのはらのふりさけし　風さむみ　夜の更ゆけは　独ぬる
いつこにゆくらん　とふ　二かつしこそ　なかくしらし
○ある女と　かくいふよし　○久かたの月のうつろを　わかまちて
けふそさゆる露しられし
○山桜と　みてしたりし　花見て　行てやすらふ風の　たよりにし
○しきて来る此松かけし　つゝきれはは　松はあし　来るのうつ
つゝきにれ　ゆふかけし　これか色に　なつかし　みつ
いつも我身そこは　ちる舟の立つる此今を　まつはみ

誹諧哥十

柿本の人丸は　よしのゝかはに　ことの外の　よきいはんとも　いひなし
さて又は　猿丸大夫　喜撰法師の　ことのいひて
遍昭をはいきて　それは山人の手を世にしらせ　ていはせ
よき山の人のたゝことする　人とみなのかはらてなかやしてまする

彼非かうや軍れもちてつかくこのやうてく文殊つけん
ちうの此からさのたかとうけ人すん宮み部と猶やうちえ
まつのいろやくいろんわのいころやへ事思のむさのつて
きすのつくなの河原元まり眺の羽さを刈りきれ
めくへの気住吉の御事をすへとも

住吉にまいりて

天くたるあら人かみのあひおひをおもへハ久し住吉の松　安法法師

ここにはとしへて

いく世てふらん住吉の松の千とせ此一つはいさ之
深き古翔れ二まちて行りけり
いひ来けれ年経るの子此めや歎くこきうすくらむ人めつけ
めくの神てゝ行りけり
深きこゝろハ此神の中ても千代よのつれてくやかれとけ儀家国
たえとの千代此義代を数へん斗らいて八幡の御事し
峯田右大臣家の障子よつき此のころんすてね承平
おさのくみける
みちきすむきつて渡ても五を細い孫の子のくにすかつ　兼盛

住吉の此山のうへてたのしみつきせぬ君か代　能宣
うこきなき山のしるしを君か代にこよろつ世まてもならへよ人
ちいさきの此山此松にさゝれて行すゑの世まて　能宣
百代とも二葉の山ののくまハ千年ゝ川の千年山まてあけ　元輔
ちきり大丈夫山へゆくてもてかへる萬代そ又人よの子
万代やまかの中山まちしらて代々のかけ二千年の花と保八
千年の松の梅のいむれるくらへめてハあらし　元輔
きよ言る時もわしる道口にいとの深のみ此みさい道なり
いくはら千代世此山ハ見きとそ君か代とを祈つらふらんの子
此日なるやまの山の梅かえ君か代とは祈りて人るまり
年ふりひさしからハはまの宮かのりくまつ口ハ
常ふたる吉田の里此猶のおいつてる　君か萬代
いつミ川のえかれに此庭にわいことゝいてけるすさに行ら名
此るの玉むれの梅ていろへつゝ千世のたゝとこすかきり
足曳の山の柳を此ハも後まうゆる千世のきみかは　恵慶
ほろむしきすまひ乃千世のつくれりの世の山と千ゟ猶さ　人麻呂
たうきくのひ此の千ゝ此やとこ大伐ふかてられと共に行わかや　忠房

恋一十一

世をそむく我身はなにとて[illegible]人にわすられしのちのおもひしらなむ　忠見
夜の露とをきてかへる我袖は[illegible]人のかたみのぬれて[illegible]　業平
あひみてののちの心にくらふれはむかしはものをおもはさりけり　人丸
[illegible]の[illegible]を[illegible]のほとにこそ[illegible]世やすまん　読人ー
しらぬ身のうへそやとふ人にわれ[illegible]のことなそ[illegible]　ー
浅茅生のをのの篠原しのふれとあまりてなとか人の恋しき　ー
大井川[illegible]のいはなみ[illegible]人[illegible]　ー
山たかみ[illegible]のしらくもわれ[illegible]のとやかてこん　ー
いまこんといひしはかりに長月のありあけの月をまちいてつるかな　ー
わたのはらやそしまかけてこきいてぬと人にはつけよあまのつりふね　ー
七夕[illegible]あまの川[illegible]せのうへ　ー
[illegible]月[illegible]我のよそ[illegible]　ー
おもひ[illegible]我身やまつらむ[illegible]の[illegible]れ[illegible]　ー

大宰[illegible]のひ[illegible]の[illegible]して[illegible]つつ[illegible]
大和の[illegible]我身は[illegible]人の[illegible]やうたかん　[illegible]
宮[illegible]の[illegible]のかきわ[illegible]かつ[illegible]　読人ー

人丸[illegible]わが[illegible]人丸
わすらるる[illegible]わか[illegible]とも[illegible]　家持
我[illegible]のかたの[illegible]れ[illegible]　定家
人[illegible]のはつ[illegible]　小野文本ー
人[illegible]の国[illegible]て[illegible]　読人ー
[illegible]つゝ[illegible]月日[illegible]　躬恒
[illegible]月日[illegible]　[illegible]
命[illegible]れ[illegible]　読人ー
[illegible]のこ[illegible]まことを[illegible]　[illegible]
[illegible]思ひの[illegible]　ー
[illegible]て[illegible]我[illegible]の[illegible]
書[illegible]のなけ[illegible]世[illegible]日[illegible]　読人ー

恋二十二

[illegible]に[illegible]人のこころ[illegible]
[illegible]の[illegible]のまつ[illegible]　ー
[illegible]のもの[illegible]　人丸
[illegible]の[illegible]けの[illegible]

読人しらす

から衣我はよそにやなれすくて見えしかゆいつはりなかりける中の 貫之

涙川上なる淵のふかけれはあはてもよそにもれぬへき哉 元真 読人しらす

こひしさは身をもはなれぬ[illegible]の[illegible]たゆるまもなし 読人しらす

あはてのみ[illegible]なかれてきえぬとは昔のゆかりとかはりきぬ 敦忠

あはてのみ[illegible]れ[illegible]なれ[illegible]をはなるへき物の思ひなりけり

いはねとも[illegible]の[illegible]の[illegible]はならぬ[illegible]まつかき 読人しらす

みをしやなに[illegible]ほとつらからむとおもひとひきの人 —

いつまてとおもひの[illegible]の[illegible]けるかな[illegible]かかれ —

ひのもとに二人ありとはしらねともおもふ心をなににたとへむ 為基

もえいつる[illegible]のまつしま[illegible]おもふはかりはなし 曾禰好忠

わかそてはなかしとのみもおもはぬに[illegible]ひとのわかれの 兼輔

うらみてもいふかひなきはたれゆゑのことなれはなり 読人しらす

なからへてあらはあふせもありなむとおもふ心のよにこそありけれ —

あはれとも[illegible]まてはいひけむときのまをしこぬは恋しき 忠見

みをしれはうらみぬものをいかにせむかひなきなかにおもひそめけむ 忠房か女

ときはなるまつのみとりもはるくれは今ひとしほの色まさりけり 読人しらす

いはてのみふるの山への人丸

まつかとをしるへにたつるいはしみつ[illegible]なかれいてなむ 読人しらす

わかこひは人しるらめやしきたへの枕のみこそしらはしるらめ —

いつはりのなき世なりせはいかはかりひとのことのはうれしからまし —

わか恋はうつせみのよのはかなさにかはらぬ物とおもひけるかな 読人しらす

われをおもふひとをおもはぬむくいにやわかおもふ人のわれをおもはぬ —

わかこひは[illegible]あはすくちなむ[illegible]根をもたえ世にしる人もなし 躬恒

あふことの[illegible]とかなしきはつきせぬものとおもふなりけり 読人しらす

恋しさはおなしこころにあらすともこよひの月をきみみさらめや 信明

まきのはもうつろふ秋はわかことく[illegible]のしるしなるらむ —

わたつみのおきをふかめておもひてはありしよりけにかなしかりける 元良 —

しらなみのよするいそまをこくふねのかちとりあへぬこひもするかな 読人しらす

しらすともまちてもゆかむよひのまにかきなれしよの門さしてけり —

恋三 十三

足引の山鳥の尾のしたりをの —　人丸

足引のみやまもさやにかれぬれとながき夜をひとりかもねむ 読人しらす

足引の山した水のこかくれてたきつ心をせきそかねつる —

足引の山よりいつる月まつと人にはいひて君をこそまて 人丸

思ふ事いはてやみなむ月のかくれにはたへてや人のこひしき 読人しらす

恋しさはおなし心にあらすとも今宵の月を君みさらめや　信明

都にて[illegible]月[illegible]　読人ー

月[illegible]我身ひとつの[illegible]　大宰

[illegible]　元近

夜[illegible]　読人ー

[illegible]　ー

我せこ[illegible]　ー

[illegible]　人丸

[illegible]人[illegible]　ー

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　読人ー

[illegible]

[illegible]　ー

[illegible]　ー

六月の土さへさけて照日にも我袖ひめや[illegible]　ー

[illegible]　人丸

[illegible]　読人ー

[illegible]家の[illegible]

[illegible]　好忠

[illegible]　人丸

[illegible]　読人ー

[illegible]　人丸

照日　十四

[illegible]　人麿

[illegible]　式部卿

[illegible]我[illegible]　人丸

[illegible]　読人ー

[illegible]　人丸

[illegible]　読人ー

玉川にさらす手作さらさらに昔の人の[illegible]　ー

秋はなか行旅の中にてとゝめて我ハ[illegible]つゝ　大膳

中にもいひしるこそ作のかきさらの[illegible]けりや[illegible]

時りて宮こえ人いふなるいのわかいのかのかけり　讀人―

[illegible]の[illegible]人[illegible]てやまうく[illegible]く―

見て所てよまはいはれ手すちのて―　左近

ちりのちの秋まもやよ我ゆし[illegible]のさ　讀人―

[illegible]ききゆと云そいはれしるへくよけりとも　人丸

人はまか[illegible]つ波のつりくて手まくらう数てけり　讀人―

みちのつゆの玉山川のゆ[illegible]きもてといふ言心　讀人―

おかやまの下[illegible]の花は[illegible]くれの人のみけとゝへ人―

津國のいくたの池のいくたひかつらき心と我にこそ人―

秋の人の[illegible]をいつて[illegible]のや人を見のまへて―

[illegible]人の世たくやすられとの妻を来なかれ　人丸

八百日ゆく濱のまさこと我戀といつれまされり無情　讀人―

行かる人のゆとゆくての海の波ゆくへ[illegible]人　無識

うつの山のうつゝにも夢にも人つ手

世の人をとをみけは[illegible]の花のやうてたれけるの如なり　大膳大夫

我戀のかつしるしるの池すへは都のやまとゝいはれけれしと　讀人―

秋かけてあめの下なるへしも人わすれぬ我をた[illegible]のいけなりける―

身かおもひの世やのみ[illegible]のまか[illegible]ぬかはかたまのゆかり人丸

ひさかたの[illegible]のかなから人[illegible]　讀人―

[illegible]は[illegible]ゆくまれへ[illegible]けり―

[illegible]のすみの風[illegible]ゆくは[illegible]けり―

若草の[illegible]人も[illegible]けるは[illegible]人の世[illegible]―

おもひのて[illegible]ゆるの風にゆけくのをすは中[illegible]―

[illegible]の[illegible]の家の[illegible]こゝろて[illegible]ゆきさ―

まつ[illegible]けり[illegible]くて人のうらみとの世人にを

我のみ[illegible]の[illegible]の[illegible]こそとのれつきけ　讀人―

詠て[illegible]の[illegible]―　道綱母

人[illegible]さて山て此すさいそ[illegible]人　讀人―

[illegible]と行く今とゆくの人[illegible]く如[illegible]と―

[illegible]のゆの[illegible]の花[illegible]我[illegible]のかたなし　人麻呂

第五巻書[illegible]奥ニ紙二

雜　第十六

[illegible]まつ[illegible]わすれてとしよせのかへるらしけん　躬恒

年月のゆくへもしらぬ山かつは瀧の音にや春をしるらん　右近
なかされ侍りける時家の梅花を見侍りて
東風吹は匂ひおこせよ梅の花あるしなしとて春をわするな　菅
いつ[illegible]我宿の[illegible]梅は[illegible]咲て[illegible]　廣庭
天暦の時[illegible]鶯の[illegible]梅の枝につけて[illegible]
[illegible]
花の色はあかす見るとも鶯のねくらの枝にてなふれそも　一条摂政
同し内梅花のちりし[illegible]て花の[illegible]人をも[illegible]
おりてみるかひもある[illegible]梅の花[illegible]こゝのへの匂ひまさりて　貫之
[illegible]梅の花[illegible]いつれとあらん[illegible]　伊衡
小白川の山庄に花の面白く咲て侍りけるを[illegible]
春きてそ人もとひける山里は花こそ宿のあるしなりけれ　公任
[illegible]梅の[illegible]
[illegible]
[illegible]　能宣
[illegible]萩の[illegible]
世の[illegible]花[illegible]
[illegible]
[illegible]子日
[illegible]の松の千世[illegible]　伊勢
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
やとつらん[illegible]
[illegible]
[illegible]
桜花[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]　長能
一枝の[illegible]桜の花を折て[illegible]
[illegible]桜花[illegible]人の国[illegible]

ミ山まの二峰三峰にゆかりて消もあへぬ雪とみてかすみ立真
　えんしらけりけしくさやきゆる／＼とミえて詠めけり
件山しるやくものこつの三山さらはしてそやけ長能
　延山の名をれおしわりけり梅の末に書付れりけり
しるさいそえん山さらあれ色のと風よりせて詠人し
あまりれさりのゑめてこゝろおゝく付たりり朝さよりみすゐ思し
梅花三笠の山のみけかわれ雪と見れともおれしされ思ひ詠人し
年ふれは名れも池えてみつるわか身はいとゝそけれは
やるミわ河風にしく咲けれ行のもらんかゝされりめる栄之
　玄の院京極家をおさまりせ玉ひて云ゆゑんしてそけ
物の下にせらいけりしのけらて花とこきへてころもとく
らしるしそ山をけと鶯てしみひもらてくみて多く
本のならむかりなる花を梅らえや色とおれきあてわて一年の兼
いゑの山て経かりけり時人みのへは内もいそ将に多わは給
多めまこにそこと梅の花のさかまらの詠りて作り枝に
　時宮もつつりしたう
是をそちなそてけり梅花ゝてからかるえ枝よりのこれり松覚法師

故に此文のよりこいぶかしあらんの手ぬとの本やまされれぬか国室は
　女の作らり白き糸とゆるふの物してくさむ可とせぬ
作りて衰がり車とくと物かの字の以よせそ作をわく
こ立そて作りそ又さ部り作りおれ玄作りかりこ作人し
三川の山部え空がわかりてゐのかれけしまりのうそ櫻歌
あるかのかけの四井にからとはきて作るきへし先をや大伴の家主
二ては月けてみれおけい作るさされぬへきまえこの花宮家字

雑秋十七

七夕にかはさえん作てゆまのそへかりかみなるうと吹
初天吹てのみやすらん七夕れぬわれ別のこゑとかきて躬恒
渡守はや舟こをせ一とせに二たひきます君ならなくに人丸
　天禄四年五月廿一日円融院の御門一品の宮にわたらせ
給てらんことらせ給けるまけわさを七月七日にかの宮より
　内の大盤所にまいらせける扇にかゝれて侍りける
天川かはへすゝしき七夕に扇の風をなをやかさまし中務
天川扇の風にきりはれて空すみわたるかさゝきのはし元輔
しもかはいつかやいふれ七夕のかれ別とりとりみの八所

仁和ゝ年九月七日廿の川あそひか一本
えのあやとおりてきんねきらりし七夕つめし衣手に[illegible]貞文
寛平の御時の[illegible]七月七日舟よのうた
夕かしいのつかひけり
天川紅葉の[illegible]とよそをもまつ毎年[illegible]
もつまきつりせの山は紅葉やかりは[illegible]のちりしかん読人しらす
[illegible]やくなりてすみのうへ此花は帝[illegible]やすらん
紅葉の[illegible]花さくの[illegible]やよりし[illegible]童之
[illegible]にいろそめん花のちりのさかりに[illegible]遍昭
舟出の[illegible]もしまさおへいつり[illegible]
家つり[illegible]人の[illegible]とて[illegible]
小倉山みねの[illegible]兼の[illegible]年[illegible]
[illegible]の秋にかきよて[illegible]
百敷の大宮[illegible]とみかいつりすむ秋の月の読人しらす
[illegible]此秋と知やは紅葉の[illegible]川にゆりのさつけの[illegible]
[illegible]村雨の[illegible]の[illegible]はきしりき[illegible]
秋は[illegible]我宿の[illegible]

けはあつき[illegible]我宿の萩の下葉は秋つきしきりん麻呂
秋はきの下葉は文付しより[illegible]のて[illegible]読人しらす
[illegible]
[illegible]萬花乱も[illegible]文は[illegible]忠見
又[illegible]かみ[illegible]西とおて[illegible]の読人しらす
くらふ山は秋[illegible]紅葉の舟の[illegible]とらて
奥山にもみちふみわけなく鹿の声きく時そ秋はかなしき読人しらす
小倉山みねの紅葉ゝ心あらは今ひとたひのみゆきまたなん貞信公
白波は[illegible]やもみちの錦[illegible]読人しらす
月かけの[illegible]川の[illegible]文[illegible]
[illegible]の[illegible]とて[illegible]読人しらす
[illegible]の秋[illegible]紀貫之
十月[illegible]の山[illegible]
[illegible]此山[illegible]文[illegible]順
山[illegible]の[illegible]義懐女
[illegible]人の[illegible]
とれしとせめられ

限りなくとはすれと是川の山井の水は絶えすそわかたる近
しらつきしけるとかくてこゝろしらされ
主のかはしもなれやつらしけるもしておおと思へは　能宣
降時条のほとりに
是年の山井はまかの家とん共にはるかしと思て是之
雪の降りくのてし冷て三ゆるのしやかく消ゆるかは
まかつさ雪けの水は流れ行き先の流くるみてこそ成り思年初も
是此のはかりて雪の中にくてて松のかは流れけるかし
東宮の御年凡よ冬歌やくれ
さるひやけれは人寄梅の花の香はひたよれ通転
志て千代つこすら時とかのひとをそけるて
露梅とみかし梅は咲くとも春もし神のかんといけるや寒之
梅となかまちもして堤神とつきつ時とかれ神や待かるし
志て千代つこするかし年代先わたるも代るけるて
白く玉のはるかつきと年暮て鏡のかけしうつる白雪
雑哥十八
明けりぬるをは志て千百よせ代長の姫はえしも思ふかな
花のえは、けるかなん皇帝の女御とくあかしてらは玉子せ
さもあきてし但伊ちよ待ちかりる時よちは、はい人てき
おてこれはのれくとはいふ宗ようそいはかは
第代とかく人ゆく紀国のまいろはかるの初かたかるし
かゝる人のはへ見て行けるる七秋
松かけれかるねをとりてそれらくきつる何ゆかし
松の花千代とせをとりてるかれ論のかのえの如へくし
我のかやこすらてへいきかのたらてはてる松もこすら暁へし
こ宗らる川もとたえて住の山代とかとも人のかすけ
六月みりちいさし代かはひちまれとまけのこそへてしめ
まくの御代の女と心ちすれて
四十ちなし行しまかまこすはわせの三月いつくしれん近隔世
千とせかの花の涼る是かくつきかは売まみけるの数忠
派なん降けの時つまたの山の下もやまかてわかりし
みかてしけるけの本まかすくかしつかえれ門るる
春いもし松はこすつて山のまる山
千ほまり雷りなかうつつれ存かな云帰

川せいへるにはよそて恋路の深[illegible]くれなく　貞文

蓬は扇や火をけしたる別[illegible]をかねてつるや　読人しらず

匹てうる佛また[illegible]いてませい神を浄衣の[illegible]白袖し

[illegible]将理ち又維正か言へく侍て死けるけりしるて侍るを

枕よりうはつけ侍りける

はうるいは人のてこそ成姉の枕かりて一木[illegible]まれと　義孝

それきのくれ落をてえてうかきたらん人てきたらぬく　為誠

うらひたらんの人をしと書せたと侍るにわたれとうの風とて

君とかそ後世へのちん[illegible]又お行の古根の世のつるまて　読人しらず

そくゝの侍るに[illegible]侮てし

かわかく行ててらん[illegible]事九ち伏らの皇なほをふり　一条摂政

君かたよ思へましかは東路のうきやとつの[illegible]て將重　読人しらず

女の許よ登けるか父のつらと川やりて起をいせたりけれは

行て見んかろ見山やまはわい我をう[illegible]かなし

君猶のいうの岩てかよふしめつむのきりなさみ[illegible]　右近

号とあへ思あるにて世事とたし[illegible]なりたん　忠女

世を憂き付師よる人もそしてかいもしく年て京の宿[illegible]枕

いまとくゝつうしらうをわい書付侍ける

きゝしの若あらへいうしいか浦とを知りかすの運らか　忠女

雑恋　十九

乙女子か袖布る山のみ川の水のくにの世よら思ひそめてき　人麿

いかりしもうふてあゆのて侍りけるか女の枕にしかけ侍りけれと

いらへてあ侍らぬはわい

いづみ山[illegible]の子らを人とて[illegible]きく人ところとて　貞文

又[illegible]の心のおもひを[illegible]思ひまさる[illegible]　人丸

[illegible]の一てしうそて恋人[illegible]ねそてやさうん[illegible]やいめのゆ　読人しらず

[illegible]けれけるはす

秋のよの[illegible]人のまけれやさうて世に[illegible]のうらあすれ　[illegible]

白や[illegible]のうるえをとするへと山の[illegible]せそてけるる　読人しらず

いつてはくゝのまつ[illegible]せえんつれ[illegible]人のうえの[illegible]ん

比ほのうこてあるそてい[illegible]のらう人の[illegible]し　業平

人[illegible]たのうし来いほ木のりのやさ[illegible]ん世し[illegible]り　右近

人のうけるう手のいやしけうてそのうの[illegible]きしうる

[illegible]のうらいえきすう度衣人やうんといひへさうしと　読人しらず

やそのりの継はけの女を因幡からおこせてかくしぬるはしるに
さすかきこえてきけれは傍へのくわしくきゝしらく
うたの御かへしにかはりてよめるはつのつまなる
文川にかくのやうにみせてなのまるれにしけるかすはくいはくは因幡から
男ちかき女をもらひけるに行そある男のつまなりけり
あるを世にみつる因の虎かとのつゝきてかゝる
遠くの山辺にみせてせん京山の井にこそありけむ
のむとて

谷川にうつる山の井の水よりもあさくは人を思ふものかは　貫之
まつらぬ山の井の井ぬれてひとよりて行人もなし　読人しらず
ゆふくれの影のいつしかとすゝしさの神に月のかけさして
たなはたのあふ夜のつゐにけり
かやなりの川へ行夜はいふてもえけるの月にかなしき　無常
世の中はいつもなにをもまたぬ山のきねの松の雲しかし　読人しらず
桂木は中しかし　くわかこちらの橋は門でかけり
いつかくてゆつけり女のちうしてきてかけりし
石上ふるの山の本下より我かた池といつゝ大くは　人丸

中務卿の宮のまへに松の名しるき君と行あひつれ　貫之
郭公なくあかつきのきんえらてんの女がれの浮に
つみける

君をのみ思ひかけつゝ我しこそ心の秋をなかめしか　天暦御製
思ひやるこゝのへの白山さしてねぬる一夜は雲もかゝらねは花に雲ぞ
山しろのこゝろ見えたるはかなれとも我ゆく君を思へは　人丸
まつ山の井にわれてきまれと家は思ふ手に君をと思へ
宮わたる人の思ひくるわて　ことにはあるのを数へりきこそ
風のやまにみるのこゝろのあはれ[illegible]わかやり世をき人の心の隣へ
世にありし我たかき宮の春へとをつけて見けむたりける
一ちんの花とかくて行くかともいとゝせしむるに
洞川みなきはわくやあさくみの枕のはにてとあるにたへし
野にもいにしてゆかうさ我宮の花をも行きまきさしまつ信峰
つら心本行くの女の花をとる手すのえゆくらむ　一条摂政
石上をしいののつらしうるかはる
石上なき行くはてゝきいるなゝそしてわきまへてとみよ　よみ人しらず
みる千代の松のつまはくまてら末さん我いれて　人丸

君かこわいしさとの中れにかにつれとれは人と何作らん読人し
られとらまことゝ思ふん二十のこゝろうしわかれ枕かれにけり書之
いみうの日にてよせのことて書付て侍り
跡のうちてすゝかいさゝ七日のわかれこゝろと思ふん読人し
たのみて別し人を行れし年をんせよれこそきかれ書之

哀傷二十

桜花匂ふものから露けきは木のめも物を思ふなりけり　待宣
中納言敦忠まかりかくれての後比叡の西坂もとに侍りける山
里にまかりて花をみ侍りけるに
いにしへはちるをや人の惜みけん花こそいまは昔こふらし　一条摂政
うきよしいはゝけの女二のやうていさゝ物を思ふへきとき
てうくたりけるけの北の方にはかにひおてゆくとき侍りて
ちのてるやおやにまさるなかてらおとしのゝ給ひん葉田右の
ことくしてかくと申都まゐりてこのれいつとそ在まに
やるかと何くさりけると思ふん人にとゝ教へ給ひしみわか道信
夜枕の白露かれちりのこりなりけりとて世中の哀さこの
許かそりけり

時雨とは千くさの花ちりまかふなにふるさとの袖ぬらすらん兼盛
妻なくなりて侍りける比秋風の夜寒に吹侍りけれは
思ひやれ竹の秋風のふくにしよりつゆのうき床は独ねの国章
朱雀院の四十九日の法事しての院の池面に霧
のたちわたりて侍りけるをみて
君なくてたつ朝霧は藤衣けさはかなしきけふの朝霧にけりと敦忠
さる池の池にうきくのあはれけりとて
またの日ことにおもひすてゝとかくの池のほとりにみなれにし人丸
服ぬきけるとて
藤衣ぬきてすつる涙河きしにもまさる水そなかるゝ読人し
らすあはれきよきなきかは物かな涙にも染ぬ道信
こゝのつのこえなれたる時すゝろに人は言服とききて底
ときこえて世の許しけるにあはれいはけてゝろの
人の身はむかしのちぎりてかはるにてやる世の哀さをしる
世中はわかきよりをとこそ人のことの涙にて思ふけるかな物類
なきにしてもかなしと後にありけれはあはれ涙にも侍り
うらむるに人の心ほそきころのえにしうへてこそかなし世はきゝ読人し

子すら行ける人の待はまうけられし待は妹すくえう
よけりとよろしく行きわい
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
人丸
家にゆきて我やをみれは玉藻のかけ[illegible]妹かこまくら　人丸
巻向の山辺とゝろきて行水のみなはのことし世をはわかみる
石ほ見て行てたく如何に[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]　読人しらず
山寺の入あひのかねのこゑことにけふもくれぬときくそかなしき　読人しらず
世中をかくいひ〳〵のはて〳〵はいかにやいかにならんとすらん
世中にあらましかはと思ふ人なきかおほくもなりにけるかな　ためより
思ひしる人もありける世中をいつをいつとてすくすなるらん　公任
[illegible]
天暦の御時故きさいの宮の[illegible]
[illegible]
諷誦にこめてせさせ給ひける時
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
極楽ははるけきほとゝきゝしかとつとめていたる所なりけり　仙慶法師
市の門に書付て侍りける
一たひもなむあみたふといふ人のはちすの上にのほらぬはなし　空也上人
三千あまり二十の[illegible]
法華経をわかえし事は薪こりなつみ水くみつかへてそえし　行基菩薩

聖徳太子片岡山遊道人の家におはしける時飢たる人みち
のほとりにふせり太子ののり給へる馬とゞまりてゆかずふち
をあげてうち給へどしりぞきてとゞまる太子すなはち
馬よりおりて飢人のもとにあゆみすゝみ給て紫の
上の御衣をぬぎて飢人のうへにおほひ給ふ哥をよみて
の給はく

しなてるや片岡山にいひにうへてふせる旅人あはれおやなし
なれなりけめやさす竹のきみはやなきいひにうへて
こやせる旅人あはれとよみ給し
うへ人かしらをもたげて御かへしをたてまつる
いかるがやとみの小川のたえばこそ我大君の御名はわすれめ

書讃ミの末かなし

○迷五

うき世はたゞ海となるべし人の身はしばし流るゝあくたなりけり
住よしの岸しげかりし波ちらぬめれとあらはれ　人丸
わきまへてはいかにとすゝみけれ人と思ふのやましさきぞ　読人ー
ありがたく思ひて行給ふ世の中は世ちかくまことなるけるうちのへ

世中のはてしつまよひは思ふことしらんやうらうらん
迷てしらしきなかしめすせかな家をも秋のたのしひに　人丸
たゞ思ふは迷ひきこもしきやむはゐのなかもつきて仰でみきー
迷ひきはかうやのえるもやく伏しきえて浮ひ流れ　貫之
迷ひきはふもしく出そめしよりいつかは山の端にかゝれる　読人ー
まよひやまよひそれたの色にかつらをこゝはまよひわうー
あのうへとゝのつきしのし思ひしれ我ままつもかまかれー
つらきはもゝ知りて迷ひけさは我みけれにかへなくうらうー
大かたの我身一のうきからになべての世をもうらみつるかな　貫之
わかるゝのかやむにはにのしさ我なら思ひし　人丸
あら礒のはかなは我思へて迷ひみてー
恋ふるは海のうらは秋ゆゝも枯なるあらくさき　読人ー
まことに思ひの中にや我身は海の汀のまさるー
塩みてはいりぬる礒のくさなれやみらくすくなくこふらくのおほきー
うちはへてくるしき物は人めのみつゝむの池のこゝろなりけり　文武
思ふ事はつゐにきゝしつたのめはつゝみつゝむと思ひつる　読人ー
おのれと我とみえしのあくるやまの月をみよかし　家隆ー

人とくわくる川で下総国のよふハらうわ坪にゑ上けり中納言
つきされとも人〻ハ又寸死んでうかんでやうにハ一寸詠んし
近江なからての深の井出てうきやきもし人のいとし
物するわ方ハいやしきうらん思知てとハうきゆうくし
進すのめのきき事きつくさんすれ日寺の深へうすんし
くいうかりしよ思ひつゝ此なきハ我々人ハ二人ありうりし
ころまゝてわい思て手すひゝきたん々らう墨縄のやこ二人ちゝ人丸
めすとハいのまよめてで疾もうくやハ矢て手れそでめと平忠依
我かうきれしと思へん人て盃てのやうれと世をハきえん詠へーし
生事手すれ神のめくさゝをむ出てつゝ心つけつむし
さねまを我すく立ハやうけり都の人ハなやけうらんーー
つきまたわつくきの部氏てくと我ら人一よ近とつきさてーー
おうち海の浦とたのみ刈ほのうき折せて付ら見ゆかうかし
女事氏すけきのれとあわれ待ひしられさ様けり文時
龜とて以ろきんハーし平経政
つきみ思しつゝやハ我うさしてゆき人てハ我れと振り詠へーし
きしみ人とのいハ叶ひ二人ね思てゆくまーし
特そん命と今うハたのまわとかうつきとゝ死せせすらね
何しみ顕るれうん世中しすのゆわれん人のけむ

拾集ハ花山法皇御自撰や
永観二年撰

後拾遺和歌抄序　抄出

○主の君みの下たちてしろしめす二のくゝでの海濱の東き
ゆゝしとも九つの国にいつきやうにゆることなし
○これよりそちらくむかしいと浅くさく人月はあさらう風
おもしろきことはたゝ花とのそおもひ見とおもはれけりと云事なり
○此月のさかりおもひしれるはいやしきはまさるなしとて
いにしへのみはいもうきほけるなりしまのうちの作といふその枝
○はゝくてちりくたちしのゝ紀和の中しつの和歌
にかゝそくる撰古今（後遺）集てのそて一くのそ手たちのかれ
の言代代雲のせる山みくわさの冊はさりかに候るれと
○春の月のはりてし何よりの花の匂あり
○三代の世てまひろはいひわたされたるんあり
○まつりの川そといひうすむへてあるまはいつるいはれてとし
○大納言頭長みちわまらの三ミ源の言人とおきそかれし
まくやの一言わかまらいゝらとさてし又十わまらくえつ
ひの言代会て世にひろくたら給のことわちすけさまとかろて
のかゝきま事二十まりとたひろく知して事しろくて今の

ゆきしも又こゝの葉此やまとことゝえらひて人のこゝろしまつらい
まうてこし一まきにえらひてものにつけことによせて集といふ
今まつりてすくれたる中にもすくれたる哥をえらひてこの
の玉此集となんなつけゝる和哥をぬきてその哥ともをかきけり
しかのみならす此この集いかにしていれてもきこえても
のいかとやまとゝもにいれてかなしう又ちかく能因法師と
いまのかうの玄々集といふ江をわかのうらにたとへて言はれしくもあらせ
このうらく人の哥を撰て玄々集となつけゝる

◎みちつき歌の集をは昔川の山ふしの玄とかけるをハまく
のりその集をいふなりて詞やさしく姿いうなるはかりにこれらの
からのは新らう玄々さをとをとるもし

○はらまつ此のてうはにしとのゝそきの條にさるをにて
たゝうの哥此にてうかうかねての世とらまあるへし

○此歌の哥又みえし此御のうらそくせつゝのてたち白河のうち
きこしめし御の紀あるへ家このまひ家をあれを
のうわそみゝとをるへし

春上 一

いかに寝ておくる朝にいふことそ昨日をこそと今日をことしと　小大君

君かよに今いくたひかかくしつゝうれしき春にあはんとすらん　光朝法師母

ぞうのくにて侍りける春の立日よめる

春は東よりきたるといふ心をよみ侍りける

東路はなこその関もあるものをいかてか春のこえてきつらん　源師賢朝臣

相坂の関をや春もこえつらん音羽の山のけさはかすめる　橘俊綱

年こもりに山にこもりし土はいつそと人のとひて侍りけれは

人三わをこえてこれよりはるかに年に山ちをこえてゆかん　能宣

山寺に正月に雪のふりけるによめる

雪ふりてみちふみまよふ山里にいかにしてかは春のきつらん　平兼盛

よしのゝ山の白雪ふみわけていりにし人のおとつれもせぬ　能宣

家ちかけれともみえねはきけともかたきゆきのまに如くそ　堀河右大臣

春またせをすくせしけりけらは人の秋をたにやまさらん　入道前太政大臣

一三井寺にて言合し侍りける

春くれはしら白雪の花とのみあやまたれてやちらん　法師

二月ころ松坂にて世のとかをもきこえてよめる

古今に紀人[illegible]の[illegible]川[illegible]まて川と[illegible]

[illegible]梅[illegible]けらし[illegible]けれ

こそよしと侍りける

[illegible]雪消[illegible]山里[illegible]の[illegible]

[illegible]昔の[illegible]一[illegible]十の[illegible]

[illegible]院の中宮[illegible]とこまうに

[illegible]侍りけれ[illegible]の[illegible]

[illegible]の杉[illegible]の[illegible]

人[illegible]これの[illegible]小松[illegible]

[illegible]千年[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]を侍りける

[illegible]の[illegible]せ[illegible]の千[illegible]

[illegible]とて侍りける

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]　能因

[illegible]の[illegible]の[illegible]　貫之

[illegible]萩の古枝に咲と見れ　和泉式部

[illegible]　能宣

[illegible]梅[illegible]

梅[illegible]の風の[illegible]の梅[illegible]

[illegible]の[illegible]此梅の[illegible]

梅の花[illegible]の[illegible]

一家の紅梅とて[illegible]花の[illegible]

[illegible]侍りける

[illegible]梅の花[illegible]の[illegible]　弁乳母

我宿[illegible]梅花[illegible]　[illegible]法師

[illegible]人の[illegible]梅の下ゆく[illegible]

[illegible]して

[illegible]山里[illegible]の[illegible]　[illegible]中将

[illegible]

[illegible]花の[illegible]　弁乳母

池水のみきはにてまさる柳のいと梅の花にて付てたる　経衡

花みにまかりけるに人のやきかりけると云てよめる

小萩さく花[illegible]ハ思ひそめ[illegible]やまさきにけりと　此歌

枝ゝと柳の花も匂ひて柳の枝[illegible]せて[illegible]　政時

あけハ見るゆく山[illegible]かすみにとまれかし　元任

あしてこそ[illegible]山桜風しらちしらしきものを　歳かねる

つねよりも春の日ハ花の[illegible]とすきわかん　道済

いつれとまに[illegible]山桜ハ[illegible]わかれ　能因

あからのへとこそや白川の里ともしりや花ハまず[illegible]　長家

たきに河原院にて山の花をよめる

桜花ゆへにこそ[illegible]花ハ[illegible]山[illegible]　恵慶

云やこん人ハをとにきかなん[illegible]一枝[illegible]　和泉式部

今ハ[illegible]宿[illegible]人ハ花ハをりてや[illegible]をしまれぬ

我宿のさくらハかひもなかりけりあるしからこそ人も見えけれ

花みにと人ハ山へ入ぬれハ春ハ宮こそさひしかりけれ　道命法師

山にも春ありと[illegible]と

山中の梢[illegible]ハ[illegible]の山への春ハまたしらす　経基

花のちらぬ桜[illegible]も[illegible]のまきれにとりて[illegible]　通俊

花みると家路にをそくかへるかなまちとほにやと人のおもふらん　道盛

いつのまに[illegible]花をみて[illegible]のこゝろの門[illegible]　良暹

いつ[illegible]この世[illegible]の花をみて[illegible]　忠経

世中を思ひすてゝし身なれとも花をみてこそわかれかねぬれ　後徳

山の[illegible]かすみの[illegible]にをきけるかな[illegible]

よみ侍りけることに山の花桜と[illegible]とよめる

山桜の花ともなきの桜を[illegible]山[illegible]のすまぬ[illegible]　道信

同所にて[illegible]しけりし家の花を惜しむ[illegible]

よみ侍りける

思ひくる事のなきにやちるそのゝ花[illegible]世を過[illegible]　遍昭

春下　二

三千世へてなるてふ桃のことしよりついわれもとてさくもあるかな　花山院

わつらいも千代まてへて桃の花[illegible]　素性

世尊寺の桃の花よみ侍りける

ふる宮の花のものいふ世なりせハいかに昔のことゝハまし　出羽弁

桜花[illegible]ちらすはやかり[illegible]　堀河右大臣

大弐三位の[illegible]けて行かた[illegible]の国に下て侍るに

はいつまての[illegible]て桜の[illegible]

[illegible]いひつかはしける

ゆかりなき[illegible]桜花[illegible]　通俊

桜ちる隣にいとふ春風は花なき宿そうれしかりける　兼盛

こゝろまて[illegible]世にはみて　[illegible]

行末をせきとゝめ[illegible]川の[illegible]　土御門右大臣

[illegible]の月の[illegible]　義忠

[illegible]

[illegible]けり　弁乳母

[illegible]　為善

[illegible]の[illegible]　[illegible]

何[illegible]　高遠

[illegible]　良暹

法橋[illegible]法師の[illegible]

の[illegible]

我のみや[illegible]　[illegible]法師

三月晦日に郭公の[illegible]きゝてよみ侍りける

郭公[illegible]ことしそまたて[illegible]　定頼

夏

桜色にそめし衣をぬきかへて山ほとゝきすけふよりそまつ　和泉式部

[illegible]の国に[illegible]よめる

我宿の梢の夏になる時はい駒の山もみえすなりゆく　能因

[illegible]　重之

[illegible]卯月[illegible]山の[illegible]　好忠

八重葎の門の[illegible]さゝすや[illegible]　[illegible]

見わたせは波のしからみかけてけり卯花さける玉川の里　相模

卯花のさけるさかりは白波の[illegible]川の[illegible]みる　伊勢大輔

郭公我はまたてそこゝろみる[illegible]事の[illegible]　[illegible]法師

卯月晦日に右近の馬場にて郭公きゝにまかりて[illegible]

[illegible]

[illegible]堀河右大臣

[illegible]の山[illegible]　道命

四月ばかり梅のゆゑよりこそ侍りて郭公をといふ人々
つかまつりける人のかのまへにてよみ侍りける

きこえずとまつきゝけん人郭公今は山にそ我もすみける　能宣

けふはとて待ちてのきばにすみしかばこやこのみはなほぞまたるゝ　師基

郭公なけどもまさるかけにて人へし[illegible]のかなしさ　経国

五月の月にあはやとしきの一声のかけにてそまつこゝろ　守依基設

郭公なくねをまつの[illegible]の声ぞ[illegible]よる　永資

きく一声やうつきの夜はのほとゝきす[illegible]にけり　道命

郭公まれにきくとき[illegible]人のまつそ[illegible]　道命

しきみの[illegible]郭公一声をきゝとめてしか　経国

まさしかり(?)郭公[illegible]花にもあかぬ[illegible]　大弐三位

見るやかり五月にかけてさなへとるなかのうらにそ[illegible]　好忠

ゆふまくれ[illegible]のあやめのなかの[illegible]かくれぬまのしたにそ　匡衡

五月雨は小篠の原のおほあらきの[illegible]のなかそ　能永

みれしとそ人のあやめ草あやしくもふきしほりける　恵慶法師

ほとゝきすあやめのふきそへてさなへはさみ　下良暹

ゆやめのさきはてや[illegible]てひらくる[illegible]　輔弘

よのせてまちのなゆきもしらで夜半[illegible]けれ　康資王母

ゆくへしらぬ舟のみをにはなちとりはいつしかやとやなく　周防内侍

なつのよのこゝちを出ていつはゝかけこそ見れ　章之

夏衣たち[illegible]御祓川いかにせん[illegible]　好忠

夏の夜も涼しかりけり月かけの庭しろたへに霜は見えつゝ　経衡

ところかはたちよりの国しれわたる　宗祇(?)

夏ふかくなりそしにけりおほあらきの森の下草なへて人かる　忠岑

立山のつれなくしかるのはこと[illegible]すれ　師経

[illegible]河波にさけるわかなる[illegible]　能宣

みなもかふかみのもう[illegible]きよかはなつの[illegible]　伊勢大輔

秋上

わか宿のをきのはかせの音すれはいつれの[illegible]秋はきにける　恵慶法師

扇のうたよみ侍りし

大空のあまのかはらにすみくる扇の風にきりはれて　為頼

つねよりもさやけき七夕の[illegible]あまの天の[illegible]　能宣

天川とわたる舟のかぢの葉に思ふことをもかきつくる哉　乳母

[illegible]やへて天川[illegible]　新左衛門

七月七日風はけしく吹きて斎院に七夕祭ることとゝまり侍りける八日

さてあるまちまうてまつり給ひし

玉はそれつとよりて七夕はたちまちなとやかくしとみる　小弁

秋の夜の月もておもて秋は恨めしき何のつゝめきなん　高遠

たそかれの月のさやけきはわか秋の夜をふかして秋は何のまたさすらん　為善卿

何とか隠れてもとふらる

すむ人もなき山里にてけりけるに秋の花に月　五宮法師

まとゐしていつまて秋の月の心のみそさきにけるかな　永源法師

廣沢の月といふ事をよめる

むかしみし花のはなや秋の梢は月の光てもいつもかはらぬ花のいろ　範永朝臣

いにしへの月かゝりせはかるきのあはれともいはまし　為頼ー

こゝろをそへしおもひにかゝれつてたてゝや月はあかるらん　素源法師

秋の秋とてこよひも月は下てさしのみるきまする　素源法師

すみの江のえにそとをてらす

とやみてまつてかへりし月もかはらぬ月こゝにきこゆる絵もの立ち　源資卿

もの根元の絵の事いひやの所を思ひて出て何事をかれはしる

天竺のかゝ言葉をかきとめてかくしとしける

ときはなるものとはかつもはかなくおもひいてたる人の好ましき秋とのみこそ　道命ー

ここやかけりけれはかりの常にゐたるかけのうちにみるたけ　好忠

秋萩の花の咲くらむしたかせもくに月のこゝろ　良暹ー

みちのくにしのふのもちすりいせわたりて小萩か月のしたに　源縁法師

このもとの秋の月に秋萩の秋の下露にみえておもかけにけり　恵慶ー

名にしおはゝあふさかやまの萩か花のしたまてもあらぬ秋かな　能宗ー

庭の萩は秋と思へしに秋の花上の枝にみえたるかなと　頼綱

ちりぬへき心もしられしと庭のもとにて萩の錦は　四条御衣

萩かたる萩の下葉のにほひさへ見やるつゝ庭さへまつる　安法法師

ここにしも庭の花ちらくきこゆれやてそ植ゑしの秋のつゆまつは　素意法師

しやきみえて宮の庭ともかけりのかけの萩を見るもやさかりのゆきし　長能

庭の萩は秋かせの庭に植ゑのこゝろをさそへまさりける　家経ー

まきのとのあけくれ萩の小萩にやまて咲きかゝる露のあはれさ　能因ー

人はいさしらすやわか秋萩の錦なりけむ秋の色はちくさに　女心

君まちて見ゆる宮の陰をまちて何しも秋の夕くれ　源時綱

秋風はふきなやみしてちるらん二こゝきくあさしらつゆの心　通宗ー

けさきつる野原の露に我ぬれぬうつりやしぬる萩か花すり　範永ー

いとはやの萩の初花さきにけり逢[illegible]秋のいはらけれし　恵慶法師

けふのもろく[illegible]の未こしもあはせてあけ[illegible]の白き　長能

袖[illegible]はこほれる枝のうへにて[illegible]へかけの　良暹

人のこゝろの[illegible]てやら[illegible]のうらけりとりける

[illegible]新をとらせい[illegible]なかりゆきまさりけり　堀河右大臣

秋風にまかれしてまちわひてとまりん　良暹

天暦御屏風に小鷹狩したる所

松[illegible]ちりまさる萩の一枝のみを宿てはきたる人　元輔

萩のうへに咲[illegible]てしのふ風のまへの[illegible]はちり[illegible]へし

萩風もやゝ吹[illegible]らさやかにも[illegible]わたる

[illegible]門をみ[illegible]しく[illegible]人の袖のこゝろは　経信母

我宿[illegible]の萩[illegible]人つねに庭の[illegible]やの[illegible]　兼家

[illegible]宿[illegible]花[illegible]捨て庭の[illegible]の[illegible]　兼資

[illegible]宿とらてわかはいつもし秋の夕暮　良暹

秋下

[illegible]てなをそてら[illegible]けいらはまつ[illegible]なれ[illegible]　伊勢大輔

[illegible]てわや[illegible]なくなかくまちわたる[illegible]　通俊

月はらしく宿[illegible]の音[illegible]山中秋はあきらか　赤染衛門

山里の[illegible]のかけひの音[illegible]吹松の風　大[illegible]

いまはとて[illegible]の秋のすゑ[illegible]こゝろ　堀河右大臣

長楽寺にて住侍ける比人の許よりいはれ候事をとひ

てよみてつかはしける

けさはまた[illegible]紅葉[illegible]の山さとしの　中将

いまはまた[illegible]のをりの秋[illegible]しとこそ[illegible]　通俊

[illegible]白菊の花[illegible]の花[illegible]　伊勢大輔

[illegible]の花[illegible]のいひ[illegible]　義忠朝臣

白菊の[illegible]ひりくえの[illegible]ら[illegible]良暹

紅葉[illegible]月の[illegible]　家経

[illegible]秋の山[illegible]下[illegible]みて[illegible]　清成

[illegible]流て大井川[illegible]の[illegible]　堀河右大臣

水まさ[illegible]大井川[illegible]の[illegible]　定頼

嵐吹くみむろの山の紅葉ては立田の川の錦なりけり　能因

[illegible]たるなかは叶[illegible]の[illegible]　範永

宮[illegible]田の[illegible]てもみせて吹秋風[illegible]　兼家

秋の果てこそは山川の水ひきさかしけゝたゝ人かゝらすらん　相摸

夕日さす峰の梢やもみちして日かけはいつもあかねさすらん　兼隆

いかはかり紅葉をとめし大井川ゐせきにかゝる秋のなかれに　公任

一十月大井川に行幸ありけるによませ給ひける

色ふかき紅葉の錦たちかへり神無月にもみえわたるかな　僧都深覚

大井川ふるき流れをたつねきてあらしの山の紅葉をそ見る　御製

木葉ちる宿はきゝわくかたそなき時雨する夜も時雨せぬ夜も　頼實

紅葉ちる音は時雨の心ちして梢の空はくもらさりけり　家經朝臣

みなき人紅葉こきませちらしつゝ錦とみゆるいはゝしの上　良暹

霜かれのいかにしてこそ冬の夜の木の葉かつちる風にまかせて　孝善

錦ともみえし木のはゝちりはてゝ風の音のみのこる冬かな　相摸

さひし絶と思ひしよりもひとりして冬のやまさと住みうかりけり　和泉式部

冬の夜はさえにしまさる槇の戸にあけかたちかき月のかけかな　堀川右大臣

こゝろからまたれし程の音もせて時雨のこともたえてしかもな　長家

荻原や霜かれはてゝ木枯しの風のなかにも冬はきにけり　長済

霜かれの草のゆかりもいかゝせむ春のゆくへも人しれすして　能宣

さかりなる花の錦とおもひしを秋の紅葉も拂ひてけるかな　読人し

松の葉とまつしきけふは雪のふるはいくよしらまし　兼長

道もなく積れる雪に跡たえてふるさといかにさひしかるらん　後冷泉院

都にも初雪ふれは小野山の槇のすみかまたきまさるらむ　相摸

いつしかとまつ人来なは日もくれぬ雪に跡なく道やしるらん　和泉式部

いかにして見えぬ雪にもあとつけむ思ひしらぬ人をまつとて　国房

ふるさとは雪にうつもれて跡たえぬ大原山のすみかまのけふり　和泉式部

さえまさる嵐にけやさゆるらん垣根の雪にみちもなきかな　堀川大臣

世の中をいとひはてゝもさひしさにたれかはとはむ雪の山里　法眼長算

なにとなくくれゆく年の夜もすからおもひそまさるいかにせんとか　堀河右大臣

山ふかくすみける人の心にはいつかはとしのくれもしるへき　孝善

けふまてはいのちも年もありけれとあすはいつくに我はゆかまし　為仲朝臣

賀六七

松か枝の緑のたけはいつまてかはなの香をそふときはかな　兼盛

一竹の節にかきつけ侍りける

ちとせふる年のはしめのくれ竹の末はるかなる世をいのるかな　慶暹

わかゝまの杖のふしきに千代をこめてもゆく末とほき世をいはふかな　道済

君か代は限もあらし浜椿二ゝひ色はあらたまるとも　経衡

ゆふ杉は葉山の松のあらんかきり千世に住てもあらむ　言端

近衛にてよみはへりけるとき

千世のかけのふかさもまさるへきこの水のいつまてもふかき　経衡

母やれはてゝ後のあれとも(?)ひとり住りける　藤原資業

万代をなにゝたとへん(?)池の鶴の千代かそなへまつ　兼房

行末の遥にたえんとはかりける池の松かけも千代をかそへん　保昌

ふるさとの花のやうにかさねてこの二代を見すれ

君か代はゆたかにてへとゝめて山たかくまてと　兼宗

君か代は千世ゝも見れ(?)川のせにえたのたちいは　伊勢大輔

千年の山のまつは千とせの春にいはふ代かた

一条院の御時みそきにかたへの池にをこしけれは　秋岡

ひとりはたにしてかはりけるのあひていへるを

一条院御時近江国兎山に杜樹ありて

百代まてちよの山てゝたてはあふとゆくらんてんの松の緑　資業

ときはなるさかへの山とさてはかはらしの代まさるらん

万代やのちのたちはかすれとも　かはらし　良経

別　八

あつまへまかりける人のもとにつかはしける　源道済

わかるれは都にはへるもまつ

あつま人はて京をけるはむかしの人と別　師賢は

立わかれしきゆくへたへとまるへしよのわかれとこそ

我に都のけしき遠とて

かはるとも花のゝみやことみえよ　道信

ありちの関こえて都の人かたみ　惟規

越路をはかなくなりにけるよと

世の中はかく二つなかけりて　まつかへ長能

三月　みなし国に下りける人に扇やる時とてもありけり

人のかたみの下に行事

行先をはかりなさとやみえつりとそ　道済

この人まことの山はまさるとも思ふに

今の世のはかなきに　源家の世の中

はかなくてそのかみのかたらひ　道信

別のまうてをきつゝのかたらひ

浦しらて

山のはに月みるは思ひそよ松風のをとも我まつてすれし　定家卿

しみつくもえて人はおなしてかけり

しらぬめのうはれるやえんすの国の松山　相模

命あらはいつかきえむ法の国の静けきのきはの松　新主

跡しらて我のをかきえむ法のきの松と待つ命日暮く　摩訶法師

田しそよ月うたえのみゆいはの松山と遠そこし　道清

とみゆきはいまおすゆくあらそて松なへくりけし

さぬきへまかりけるに

松山の松の浦風吹よせはひろひてしのへ恋わすれ貝　定頼

とみあるしるす月にめてきを思ひきて松のこゝろ　寂然

一式ハと言ひてその国を下りけるに

ゆくてまるりて別てのちの世にみえ別まし　赤染衛門

川く舟まちうつてことことてゆかはゆは俄かなる思ひ　登蓮法師

あはちのしまゝ住まいくいもをそよりて見よかく　正三位

室町法師入唐まかりて川くてまて七月十日身まかり

けれはよみてよみける

天の川江のまかりけるをき出てあふせとなくて（経）

入唐しける人につかはしける　うつりかはしき逢坂の関

このわかれ事の別をそてまはしけきけ　寂照法師

母の行すへもあらはる

いつかまたあふへてそてすけもんつてやの世ともぬ別と誰かし

羇旅九

石山にまうてけるに　井

逢坂の関とはいへと走井の水をはえこそとゝめさりけれ　増基法師

そのかみてつゝら別すゝりすいはされそしおこらの法や

きけるとをらんて

ものゝ名をよのあはいおかせけりやかけてかたやれん叡山法師

よもすの上　上の院とて

都へて此上の宮をへて王ちなりてきらん　懐円法師

舟にのりてはつにと云ふものを見るとて

きりてしたゆかみやりぬる

はの関へほけなる　へてかひの松のもとにてみて国行

かのやれこやの手るしいまくあつかね得と　能因法師

東へ下けるみちにて
都のみかへりみられてあつまちを駒のこゝろにまかせてそゆく　増基法師
和泉[illegible]都[illegible]ける
こゝにても[illegible]都[illegible]　和泉式部
七月朔日ころ[illegible]
まて[illegible]東とみて中ともに[illegible]行らむ
[illegible]都よりとく秋[illegible]雲の[illegible]風[illegible]
源の[illegible]　良暹
[illegible]
かくて信濃の[illegible]
白雲の[illegible]山の[illegible]
東路[illegible]人の[illegible]
[illegible]
[illegible]行ける
かくて[illegible]
みちの国へ下りけるに白河関にてよみける
都をは霞とゝもにたちしかと秋風そふく白河の関

出羽国にまかりてきさかたと云所にてよめる
世中ハかくてもへけりきさかたのあまのとまやをわか宿にして　能因
[illegible]
[illegible]月の[illegible]
[illegible]都の[illegible]
[illegible]海の[illegible]月と[illegible]
都にて山のはにみし月なれと[illegible]　為義
筑紫[illegible]
[illegible]
[illegible]国[illegible]行ける
[illegible]
[illegible]国より十二月十日比に舟にのりて[illegible]ける
[illegible]都の[illegible]
[illegible]山と云所[illegible]行ける
[illegible]山と[illegible]　通俊
[illegible]月[illegible]

是や此月みるたひに思ひやるをはすて山のふもとなるらん　為仲

ある田毎にうつりてみゆるとそ

さらぬたに岸の風やいかならん月の[illegible]　道済

象潟十

一　[illegible]院ハ[illegible]良説ひて比張の[illegible]のりと[illegible]ひけ

られたる人とミつけらるゝわいしらてつらんとせまほしわか

しれて三ミてたけられらけり中に

秋のよに[illegible]すい[illegible]海のうへにゆふつき

さくや[illegible]にいえそていはれてそれにけらく

わりなく[illegible]かれあまつはきせてこゝの[illegible]　[illegible]長

[illegible]法ハまこうせ行て[illegible]遊行[illegible]し一[illegible]

けふそて子は[illegible]せ[illegible]しこうして思出てしも行[illegible]

[illegible]のそれさてもいのちやまの[illegible]りかてこんと　頼之

とれとて〇の[illegible]に[illegible]と[illegible]ねらの[illegible]　[illegible]

あつき雲の[illegible]の林のうちにそすれ　[illegible]

[illegible]の[illegible]やまき[illegible]の[illegible]ひのはし　相模

[illegible]のとてとれなる[illegible]きかなるらん　山田中務

さくやと思ひしもいまはとつたへ秋は秋こそ[illegible]や　相模

しらすなく秋を[illegible]桐木のうへの[illegible]思ひやれ　小左近

霊山にこもりくて[illegible]そ[illegible]のちす

ミつしおてそ秋のこすゝきまて

わすれしと[illegible]宮の空[illegible]　[illegible]

一　[illegible]

いつかる[illegible]本らし此坊の[illegible]　右大臣

山寺[illegible]行人の[illegible]

山寺の[illegible]此[illegible]二のまへ[illegible]人[illegible]

[illegible]人の[illegible]さい[illegible]まて[illegible]やせし　[illegible]

[illegible]此[illegible]京[illegible]

思ひやる[illegible]此[illegible]　孝通

[illegible]そて[illegible]とそて[illegible]

[illegible]しく[illegible]のうへ[illegible]　[illegible]

[illegible]二の[illegible]みや[illegible]　義孝

いま[illegible]此[illegible]

小[illegible]中[illegible]そて[illegible]此[illegible]とそて[illegible]

とゞめおきて誰をあはれと思ふらん子はまさるらん子はまさりけり　和泉式部

見るまゝに露ぞこぼるゝおくれにし心もしらぬなでしこの花　上東門院

道信ともろともにもみぢ見んなどちぎりて侍りけるにかの人身まかりての秋よめる

見んといひし人ははかなく消えにしをひとり露けき秋の花かな　実方朝臣

六月のはつかのほどに女[illegible]まかりて侍りける[illegible]

[illegible]の露[illegible]われ[illegible]　道済

敦道親王[illegible]おくれてよめる

今はたゞそよそのことゝ思ひ出でて忘るばかりのうき事もがな　和泉式部

同じさまになげかんと思ひてよめる

すてはてんと思ふさへこそかなしけれ君になれにし我身と思へば　一

五月つごもり比よめる

なき人のくる夜ときけど君もなし我がすむ宿やたまなきの里　一

帳の中のひもにむすびつけ[illegible]とこそ侍る

しる人もなき別れ路に今はとて心ぼそくもいそぎたつかな　皇后宮

[illegible]　道成

[illegible]　伊勢大輔

[illegible]かなしきわざや　康資王母

赤染衛門[illegible]五月[illegible]

[illegible]あやめ[illegible]　三位

[illegible]

[illegible]一条院に

[illegible]　伊勢大輔

[illegible]（服又[illegible]）[illegible]

[illegible]

十月廿日[illegible]一条院[illegible]

[illegible]

[illegible]　赤染衛門

[illegible]　伊勢大輔

[illegible]

[illegible]の女

ことせましてしゆかなしすかは女のゆしやとくもとしゆかな
おくれまいらせける人の又の年もしいてさくまし　読人し
女のまたしくなれてくらしし給らむ
ゆきとしら後とたのまれてまわれぬしもくまれられ

恋一　十

いつかわ見まいりけむわかまゝしやみてかれのてしゝのゆる
かそうんとみけのはゆふのうせ給人の浄のかれてくるゝ和泉式部
まいつてやこえへいもとかまさしくして知せん　赤染衛
なみたの身あはれとてかへしてなにそ人恋わたるの人　紫式部

女のかしえてつかはしける
くるしさやいつまての浄もこ草ゆかにおかはかりひとよ恋わ方郷
年のうちの月の秋比月影のまたのくるのかへとよけ　則成
ふるとりつてありあ人夜山の末は下はいと草たれて　長能
なかなか給けるも女のわしとおとと見けくかの名　女の浄

まつつかくる
と母にけらのはら言人女といふわすれの名のりありく　読人し
知らそすのあの言の中をかて丑子もまて知まて　道頼

世のまゝいつはとすわかひと人にしられぬるの命　道命法し
女をひろくて持てらて待まて人をわかれて後をまけるか
御のくさきころは日影さしたつはなてひとすまかかなれ　藤原
こゝは浅のはたえるは浅るかやうに子鳥のなれそてぬれは　相模
情けよ我をのさいつかかすてもおとたかひらちそれ　道命法
おつるのいそまれは七夕のまつえてくものやまれ言の体信人
人の中をうてまてまことにこそてまして中の行為かれ
おつ事のこれはつましいゝかからとも二とえても涙のかゝし
時のかきうへ中しくてをひつあきのこおもいゝ人のいつすまはかる恋する
ゆるやれのこれはえむときまて雪ふりて立とくひみて花の人　教保し
しき中の雪きの空にひかてしく我はちかくのいかのことの　加賀式部
おもての涙にもるのてゆくかはれわくすさ恋はかなくさまこ
おすまてかみえて命けの初もあれ人の心のゆくゑなれ　堀川右大臣
あまりせもえてきみくさとかえ手にあやすてゝれそてゆかまゝのとして
おつまふいあすとろふ恋の人たのしかゆりたさの浄　道信
女の則にまかりてとおゝかくらふれ
あやかけてそのあは則ことしめてかこみのいれまて身はふか　道済

錦木はたてなからこそ朽にけれけふのせはぬのむねあはしとや　能因ー

たのめこし命の[illegible]にいはせてそ[illegible]人とやはまたん　小式部女

[illegible]とやこれを[illegible]恋しとや[illegible]　小侍

[illegible]　[illegible]

[illegible]恋[illegible]　良暹ー

[illegible]の[illegible]を見ても[illegible]恋[illegible]年の[illegible]　国信ー

[illegible]年ふれは恋は[illegible]　[illegible]

年ふれと[illegible]山の[illegible]人の[illegible]　右大臣

恋二十

いにしへの人をけふは[illegible]　[illegible]

[illegible]　俊頼ー

[illegible]　義孝ー

[illegible]　公任ー

[illegible]　[illegible]

[illegible]恋[illegible]　永縁法師

[illegible]　[illegible]ー

[illegible]　相模

[illegible]

中宮[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]女の許へ[illegible]

[illegible]右大臣[illegible]

[illegible]

と告給ふ[illegible]けり

あまてらす[illegible]人ー

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ありま山ゐなのさゝはら風ふけはいてそよ人をわすれやはする　大弐三位

[illegible]赤染衛門

[illegible]の橋　[illegible]院

廿三（十三）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いと[illegible]生田の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　道雅

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　道雅

[illegible]

[illegible]

[illegible]　相模

ゆくこのまはりもとらぬ世にえそにけりくれぬ遊し　和泉式部
あらぬ此すくなりにけりのかりひきかめへきみかへる　相模
つれにけり淋しくてまふかわかこのまのいつかふれすれ　和泉式部
中々にうきむまの見えしいかにうき事もてくるあるけれ　相模
見なれ事つきわたりのきうる事ハなかみさみかるり　良暹
哥引すゑとかりける人の許へまかる
あはれけ世のかみ此里制しとてかのかまえ卯　和泉式部
まあわなんされてる手甲子なんなんとよしみのおとにせし　和泉式部
七月廿日の許しつかはしける
年此中わかれたにの君をそてまれ七夕にやするへきかな　道信
七夕とおもひしかとも神まつりていまはことくまてなりける　増基法師
くすてまてにつきはけりぬるの命とといふまでのみすこしつゆゐ
無常（ただ）
いかにしてよるの女ころもくれてつつ
あさかほの見へてし神とはけりてまの秋山法こけしけえ　三福
ところのこるやしあるんとまかすもいつまでものかけるのか　実方
世代の秋のいつしとまかてきたりてあかそてまもとつらぬとん　恵慶法師
何とめ世していたたきの世此文るのことあつか見そん　道済
何ませとりは神と捨つて見しあれのみかへ行もきてき　堀河右大臣
見なしつもとなのたりとかちりや浪の三川わかけらん
ましすそ事いつもて見えつきましいつもと見えて　為盛
あやうしとこゆかもくくのまつる末枯れかるかかま人　相模
あはれなんへまてつつされあやきいふ人をたの山如かく　有親
みるは海の淡のきなことよれてかな見せことの秋かれつつく　廿九
見まへつなか見てきゆとゆとそきせしもせしとまきし　長能
つれるくかれ義をす田つゝへしわれはひとよえせひ人　和泉式部
君をしへいふてきそこれと一さらせむ神まれあかけつゝし
まつ世いまとて此世のゝ秋のるをるの年とあるの小弁
あはゆふとえ人し出わりゆいゆまつかへ神此みろえるかれ　道済
うれいまみさへゝ面やみわりかんさふ近江守さ永れ　入道前太政大臣
君そてつ済つとかれとへそてにけつのやへふえん　元真
時さの息の中あるうきとみるうつゝもりたくなくもと　大和宣旨
やくとの枕のくつ言ゆわてかなをる庵のうらわれ　さらさ
文永六年卯月の二日

恨みはさらに袖しもあらましゆゝし
あくかれてゆくへもしらぬ身をとひくさすまてあるまし袖の白　和泉式部
我心くらんものかく色もかはるへくなりゆくそらつて　良経
うつり行とみえしやなくとも月のみそはらはうちかせ　紫式部
手にむすふいはゐのしみつ我そるへきのすゝしよきまれ　入道摂政
同しくもゆくへ見えぬ身なれはうきくやれゆかれあさけれ　御門右大臣
松島やおしまの磯にあさりせしあまの袖こそかくはぬれしか　言之
浪あれぬる海のあまのかくらてよもかもしまつるさきと
白露もゆめもこの世もまほろしもたとへていへは久しかりけり　和泉式部

雑十五

月はなほ山のはにかかるまてみもせしかと思ひやれ　忠信女
見る人もなくてさかさはいたつらに毎月の光のまゝに見えつらん　惟盛
月のみるかけこそ池のそこにすめとおもひなけりの夜　良暹
きよく澄む池の心にすむ月のかけはいつしか我身にも似たる　親家
池の心にすみけるや月のさやかなる月の光のゆかしきに　後徳大寺左大臣
みかよりうれしき秋の月のかけに心にそむ心ありけり　藤原輔尹
夕陽隠れてまつは時にこそ絶えにける空をしらしむ　慈円

ころは九月十三夜にかはる
忘られぬものはやかはらぬ月の影そみえし　後冷泉院
都にてみしかはらぬ宮の月ならひしきさにめくる月影こそ　済仁親王
ゑ　雲かくれ夜のまにやかはるらむきみかありし月はなれ　定頼
月はいつれのくにゝもかはらねとすそ山のはにてかへると　能宣
ふる郷よりいてゝかう人の月は見るらんわする
なかめやりてくもらんと思ふとき
すみなれし都の月はさやかにてゆくかた海は山は世のうきに　高倉院中将
山のはに入ぬる月のかくれにしよをもみるそかなしき　孝言朝臣
一月のすむにしてなきかわかれて世をすてゝ世にはへて
いつまてか人のつれなき月をみてそのかけもなく　赤染衛門
例すみけりていつはりて信するを人とはゆるものか
月のあくるやうにとゆらくして
心にもあらてうき世になからへは恋しかるへき夜半の月かな　三条院御
身のうさをみえたるゝまて思ひ行もすゝすへて月のなかめに　小弁
也　ゆくすゑはまたいつとなきかはりにし有明の月　小式部
月のあかく行あき秋ことにしらて侍ると事はきらゝ

よみいれさせて侍るなりける
秋そらのかけよき宵といふ心を人々よみ侍りし　読人し
ふけゆくまゝにこれかすみをいひきらむ月にて雲のうへに指名れ　隆方朝臣
あまのはらいかてこよひの月のかくやさしくて沖つしら　長国し
川のうへやなみのちへのなみのよるまにかやるらむ　好忠
一歌合し在位させてありけるに
あらはしてこそやさしけれとて此ことをさそし侍りけるに小式部
五月なる六条斎院にて物語合し侍りけるに小弁おそく
いてすとて人々のかたつきとて月の物語といふを侍られ
しに宇治太政大臣小弁か物語は見所やあらんとてとゝめらる
とゝめさせて侍るにはいつかまちけれはとて出さる
まことに見侍りける
ほとゝきすいはかきぬまといふ物やいひ恩ひてかへしよみて又小弁
うきさの国に侍りける頃比物語しけるに給はれは侍従経信
ゆうてかんあそひにまかりて物かたりのついてに言信よみ侍　兵部卿
山さとにうつりてよめる月をみて侍りける　相模
霞てすゆきつまよりおとすれはあまのうきはしとさのそくなる
へたつるもあれはしくはとなりせん恋しきはてまちてねんし
ありくもまたあかきまてかへりてはかりかねてあかつき　逢御頼光
ふるさとのまてしのくとて人の許にいひつかはしける
としころのいひつかはしける文のくりかへしみる人のもとへ　道命法師
後朱雀院位におはしましける時後三条院東宮にて侍けるに七月七日
まゐらせ給ひけれはよみはへりける
天川おなしなかれときゝなからわたらむことはなほそかなしき　周防内侍
思ひやれ秋のよふけのしくるゝは雲井の空の人といふ大輔
後冷泉院宮にて三日のまつりに侍りて侍けるに
恋しけれは此夜とてや海のゆふくれなのに　御製
みちの国に侍りけるに遠き人の都といふたよりにやりける
とよみけるはされは人はいふかひなきものとそ
あらぬ東あれはかはるに物のいふなる人とはこの世にもありける　藤原伊綱
世をそむき給ひてのちに聞えさせてつかはしける
よしあしのつにそらなる心のこいてはれはしれともいふなれはいまはいて
思ひわくかたもしらるゝとはからむ人のこの世をいとはるゝ
つねにもの物ありけれはゆかたなきとのちにあはせてはかなるに也

とゝめさりける
すみ人ハをさなくて世のなかにありし月日のへにけるを　弁乳母
きこえけるとのたまはすハ又付えさせ給て人ていひける　経信し
あさましくてやみにけるをほとなく十月つゐたちころに
てのちかハとくつゐにたえにしころ
おもひ後朱雀院人の亡くなりてかなしきことゝいひけれは　斉信女
後朱雀院母后にて上東門院白川にてかくれ給ひける頃風のいたく吹
なりて後上東門院御供に侍ける日ありてつゝみ
いけるところの桜やいかにとおもひやりて人きこえけるのちの風よりも　源兼長
詠二十六
桃本此桜の下草のしけりたるにかのすゑやすみたるとふらひ　道信朝臣
ありけるのすゝき此ミ日わハ大井川のいかなる言とて人はとふらひけるに　高内侍
まつなきさらしそへてまたもあらぬ物ゆへに此守すの山のすそかたに　兼房
しられぬとめて哀きなれのいふなれてよひてもかひなきを　和泉
ことわりもすそ上けるそしとゝめける
きのえ此花をまてもわすれとはいてのかへりきなしの命婦
やまのかひをみかへりて留行の此をとゝめせすと続けるに　和泉式部
今はとて結ひし結ひし花の袖をきさらきにぬれはせん　堀川右大臣
わかれまえとしはてゝいつく草の袖もそのかたえ衣うくまうなくかし　右大臣
絵あつきの桜を藤の花ちく立ちぬわハ桜を日はかのいけるしやせましく　伊勢大輔
大弐三位のもとにまかりて后月ひとかしまゆきのかりぬきちともちて詠給ける
むかしのこれいはしき宮の付まかりすゑ来桜の名もあえありけるあまそ　相模
あつさきの君此上しんゆゐてられとかへいひに見えまうへ　小一条院
ことくうのきさてまれんてあはれはしのちこのあはれへてあかわの　和泉式部
まそれしとゆの行にありへへのれてしぬて枕もこりて　かへせ
て侍るなり
おそけりけるハんにしたかひてこそやう年しけり　これそかくすゐて　馬内侍
いてし人行とかへいけそらまへ更上すきとしの人のあかもをゆかしと思ひてはへりす
ものゝ亡きあのゝはのつゐの人をかけるを見てあかれにかはいしといひて侍る人に
とゝめおきてたれをあはれと思ふらむ子はまさるらむ子はまさりけり　和泉式部
三くさ山さしかくれにし日をかそへ侍りける
ゆくへしらぬこれかかる君いかならむ　このかへし
あはれなき人の別はいかにとかとせくらむ時なくまちき給つ　　ゆかし
しゆゑしさらになきのことみ給はるかへしをそかたみにはねそき
いゝくのきみのひ衣とゆかしきとのゝ此とせらかへし　定頼
まよひのまつにやなりけるをみかへしてみつゝいさかくらむ　伊勢大輔

すまゐのところ此国やうにかりつてあつゝとはくミゆかハ元嫡
民にふて思ふもしのりとまゝのてんゝ給ハあうときこゆる
女の許に来るけるにめてたき代に都て給ふわたり
松枝の実のめてたき事とは〇いめてた此ことをとてされたる近衛少将
右中将にて行成卿 ―
衣とこそもち此意は ―
東宮此三宮の山へとつかはわすれとも七月の新はゝ素て法師（法師にて）
紅葉けるの翊花義人して給へる時ぞのあつさゆまつりの
内侍まりは御文をとて見られけれとこ此よの事とは云了上け
わくも此てつとは人のくんと云て給ふるをよし
ちうきせきありて此はふめるは此て非はまて意はのくん内侍
左中将義人に又つかはしけるよくのを給ふわいちうされ
うつしに付てつかはしける
みさえぬあねのことと知るてしのめるきもるつれあすけき　義孝
かへるとも非あひかくて浪寸すてとききは海ことの　読人
君にまさるこそてかなふかおもは此本のよの月いえりけ　和泉式部
中納言宮れつしの事てまことさらけるし内給けるとゆるし
たゝ代とそいのくおけ給ふ給ふ御かへしてまけか文の日
つかはしける
ありそハいつてまけ給ふむやこみてし秋の空にへさき
とのつ我ものし給ふ人のいはゝろうましき長国
はうかけまうく代報て言し給ふはらへわはまよくの時
しら我か人々をいつかせて給ふわかしもの
報とはいつてつくしてわかりにてきゆるから律師朝範
相到長父のみち此みのとき給ふ法よしのきまう
るけると見給ひて甲ゆ給ふて給ふうかわいみの日生とけ哉
給ふそてくるれてまいしみちのく此牛からの御と中ゝこて又サカミ
二ア事ゆ日てそてうは国のうちへ中ゆいてと此れ人中文日
いかにおもわかくるはかくゆるにたまく給とすまる　相模
ーことうつらのそしー　女のまゝのせて ー
松かつねもとのいひ此なりいゝてゆけはあかくあらん　極駒
いるるもくいおすむしきこゆるとたちのつまれはて参らん　まうのう
名けう意をあらんの山なるに行くけめのつていゆるを云て給ふよし
こえとは思ぬれの山となと中かといいうかえんとや　和泉式部

かきたる也されはこそくりやかて此山吹の花し
門をくゝりてつらなる人の詠くつしたる
かくれてゆきやいかなる秋の花いまそしれのとうへきとも
凡字ハすへく詠事ハ秋ならわやく氏ハ此秋と書まいる[illegible]文安氏
歌三十七
詠文[illegible]とりとてき山の中にて人とすまん[illegible]
つきうまわての年の故人のかの二九大年ますかりて
舟にのりけりしまわり
川舟にのりて[illegible]のゆく時ハ[illegible]川のかたをすくはしわか[illegible]
[illegible]みわかる人此文わかいいかやそえ詠をも[illegible]国行
みちのくにあかち氏まかといふやうて[illegible]我かをゐつつか[illegible]
[illegible]の人に光分わしうつくして[illegible]月とさうし人座主明
限あわいまのくおあきくてかうまさる伊や[illegible]のさけて[illegible]
[illegible]前時[illegible]時家の中いくし[illegible]うそまさくの月しうかつ
思ふや衣のかへみうして三代まで行をうすまて[illegible]後宗
[illegible]まくてさく白菊いてくの花きたりしもみくさうけつ[illegible]任
ま[illegible]事此あまやくの中子んいさあて[illegible]をとし[illegible]御氏

一
我のまとみのひとつしに[illegible]のいの人此松てまさそうのつゆき
加茂の[illegible]とうちけり詠し[illegible]て酒のとこゝろてつきて[illegible]
[illegible]詠[illegible]書[illegible]くしきりけり
紀貫[illegible]みさ此中にそ[illegible]のまつの[illegible]みなうにはる[illegible]
まれ舟のうちに[illegible]此[illegible]きいはれ[illegible]人れみき[illegible]長
[illegible]宣氏[illegible]のころわ[illegible]きつうれあとくしうる兼道[illegible]
小一条院[illegible]を[illegible]時思ひすて位かの行[illegible]火
たき[illegible]をしられくとそてしかつ
[illegible]ひとくみえき[illegible]て見しよりひのあれ[illegible]此[illegible]女氏
[illegible]ふ[illegible]此[illegible]月とうちそしまわる
いつか月えしし思ひてしりていうそれあらわれけの為任朝臣
紫式部ハやさしの女のこしうりて和泉の国にありさわく
又のこしの又月しらて大弐の三位の詠しきらう
越前やこしの秋此紫式人下かゝのを[illegible]かく宣孝
紫式こしの妻[illegible]しゝきくしえ人の紬[illegible]か大弐三位
ニわときうて[illegible]ねそらくきや作ハさ[illegible]とききて
まくらきてあくへ[illegible]思ひきて[illegible]かの秋のれくまさ[illegible]書き法師

丹波国にて保昌あすかりせんとしけるに秋鹿のなくをきゝて

ことはりやいかて鹿のなかさらん今宵はかりの命と思へは　和泉式部

　し沙汰の家ときゝてしらなる

松風は常に清しりつゝ昔しのうゐことはすむの悲しかるし

　世のくろは此杉花とて

咲のとれ歳とこしつ梅花やさしき此人とそのみん　小大君

ゆくのをきりしれしるるてよう事せい如しらゝ　和泉式部

丑人きゝてられまいおゝわりしあきれてとりのやとまり

芋とそてらん此の国とかのてゝすゝしの稲妻　源順

ゆめさめの月をもしけふはまてゝてまの人よりさらん　国枝法師

無くは若年人ととろ人まし宗とる面もかけ日にて　大弐三位

　王昭君を

なけきこしあらのまゝしへゆかてあれまゝしとこあ深く　赤染衛門

思ひやる花都をしのふれは国人ゝてかへ人とのしれく　橘都督

みならへ綾のこゝれてきしへてらゆあせいかてらまうしや　懐円法師

入道前太政大臣は歩ゝて合仏いこゝろひけるなる　試紅梅の

時よあるん乳てそ近衛てやうえて詠ゝて　喜ゝ於安ゝわ

昔と直そくしらめつうる

いまくいつくきこし此るの雨わきくれゆくの雨きみえすてのあり

　終わりに　おいちうる日右近の主よの桜にて吉付行なる

とりすねいまりの山にてあくかれいりしまとをまきせつの　信孝法師

　中宮内侍わかまいまかれてきゝて　まなる

いそくく花のたりとそとりえてゝなおもとまよれいらうえん　藤原範永朝臣

みてそかしく衣のうとしもおろて花てゝもかんてゝれくやてきせ中文し

　一は所に於てよ何しこのあてゆ花にしし

見すて花と知りし　あるれしに法花あまきくは若如とうの　能基女

世とききしくつとうけてゆうまい

早くいてこけの世中といひといつよてあまとうらん　公任

法師に於て住けるまあて桜の咲て紛るけしてよめる

ことへてまれのこゆくおのていまうてきゝの花吹しらし

　良暹法師大原に住はしめてきゝてつうてゆる

大原のやまのすみかの庭火にいてゝ月のこけいまゝや　素意法師

さくてやまうらん大原やまのすみか火を見あけれ　良暹

みのいやすいつくるをしたるれ大原山はちのゆふくれ　国房

思やれ（とふ人もなし）とふ人もなき山里のかけひの水の心ほそさを　上東門院中将

雑四十八

たけくまの松は二木をみやこ人いかゝととはゝみきとこたへむ

みちの国に二たひくたりて後のたひたけくまの松も侍らさりけれは

たけくまの松はこのたひあともなし千とせをへてや我はきつらむ　能因法師

河原院にてよみ侍りける

里人のくむたにいまはなかりせは松井の清水みくさゐなまし　恵慶法師

同所にて松をよみ侍りける

年へたる松たにいかにおもふらん河原の院の昔わすれす　江侍従

住の江に子らの松をきゝて友からのゝちになりにける人の

松をゝしくいふせて侍りけるに

我とはかりて中納言世にまさる内侍

うへの殿上にて（の君たちあまた）後撰松のみかけいはひ侍りける　資仲

萬代の松にかけてそいはひつる君か千とせをまつ　藤原範永

こゝろあるをいつれの松はかけてまつ事を春の 春喜

このみちを言いとふ代のさかえこそ君の代にあふ 伊信

うちかけて君か代のためはしめてそ 能成

君のいへにて松を見えけるにてよはひのゝ 修理大夫

御門の院にて

ふゝてすへら山の松の末はこゝのへまてそ匂ひける 定頼

法成寺の御門にまいりてかの国のこと

桃の花代はなとてみちよといはひ侍りける

けふくらへにゆかは桃の花いくせとてか松の白いて 弁乳母

又まつのやうてかへる時しらのまつ花をこそ入道

してよみ侍りける

をはれたる名をなかしてかへる人はまつの末のはなに重なり

大学なる時月をみてよみ侍りける

あそひけるにしてこゝのうちに末のやさしみえけるを

こゝろの中にて見てうつしく見えしゝのてはゝ

のつまいまうて月のかけはみえのこゝろとめ

たのみてまかりけるにてよみ侍りける

心をのりしつ代言とこゝのいつ月のうつりき塚のなし

修理大夫こゝろ君の　侍りけるはゝのひさしく

てけさの心とゝ侍りて

いつものことなれば白糸はくるくるとしぬゆへなるけの宣之
住吉の松は[illegible]とも見つへし舟とさしてきたる後三条院
ましてこそ住吉の[illegible]此世は思ひのまゝ[illegible]仲
一四字の使にて難波にまいり給ひける
（みの）一ま神は三つん住吉の宮の白波にかゝりて[illegible]
熊野へまいりて住吉にて[illegible]供奉とて法師なる
とにけつ宗の玉くしげの白波つきして松の二千[illegible]法師
天王寺（ち）にまいりて[illegible]給へる
万代とすみかの井のやさかなる此小川の流なりけり乳母
[illegible]して[illegible]給へる
橋柱[illegible]のおなとも[illegible]左任
よみける此て[illegible]のこと[illegible]さ赤染衛門
行きし此池[illegible]と云[illegible]
名もいひて行きの御[illegible]わいうつ[illegible]道命とい
熊野[illegible]そ[illegible]とけり[illegible]
やまて[illegible]波て[illegible]いひる[illegible]
き鳥の[illegible]川の[illegible]給へるとさてしけり

山寺[illegible]やさかなる[illegible]
[illegible]の[illegible]此[illegible]
[illegible]代[illegible]女のきけり
[illegible]の[illegible]とつ[illegible]
[illegible]女の許[illegible]
女の[illegible]
に[illegible]女の[illegible]
（ゑ）[illegible]とて[illegible]
[illegible]言[illegible]
初[illegible]
とて[illegible]
[illegible]せん[illegible]赤染
[illegible]集とて[illegible]
（ゑ）一[illegible]
[illegible]紀[illegible]
[illegible]
伊勢大輔の集と[illegible]

みるといふは男ありけるやうなりし昔のあはれはまさりけりて　康資王母

一ゆきけき女のかくるゝをみすさうらひけるとてきゝて
病をしやすみて山の月をみむしもろこし国より渡りけるとて末のまつ
思ひ出とつてかへし見むしのこやみつし山吹の花なる紀の国
もろこしけるもちかきはつる物人の身にて昔をあそびきける
うきけるこのよの御かたちを貝しをすくる若の衣もやまとや馬出狗
思ふものゝつとりくて待るけふとたえん又かゝりくはのこい
けるかはへつらすみて見れ有けり待るなる
待ちつる所の歌のうた御為すくいふ所々人の数にいふへき所深し

雑五十九

君かのみ世の数をいはひてくいのる世をしとあれ此のたいふ大弐三位
数かきりなき此文この御のうちのまたのまつ御物の文字を並置し
三条院東宮と申ける時式部卿敦儀親王うまれさせ給ひける
かのしけるしてまつらて七よの子けく侍りける
万代と君か御代いのりいのるくもつるはのかくしかる代ゝ入道前太政
思ひつゝもいのちのはしまりてこうたましき是いへ思ふ所のこの数々にまつ三条院
六条左大臣殿にて住よし国の国にて給ふまつりしくろ

御このもそのこゝに所をかへた人のいふ人のかすと昔の思ひ
いへる事やありなし
あらためもしかなるたうれむ昔きくこの人也とてまつりたる所ゝき桐壺し
此一条院の御時そのこゝのは御なからし上東門院みこしとの
らせ給ふ宮にうらみしてたゝかゝらきあみの御はすそのかくな
思ひせし世のうゝきさきかしこしまつりかみしもや选子内親王
一上東門院と申しけるにこれまうておもとひにてかくら
秋の紅葉とし折れし枝を入てまゐらせけるに御かへしもつかはしける
大斎院とかうせしかうをそへてやうつしてけるに楢の花枝ちらす御物の上東門院中将
中つてやこのはまゐりける月のころほひそこのおかれけるにいはひ宣旨
ことかなふみれはのかなきつかはしかへりつとのまゝにわか　御入道前太政
大臣かはつうかけつつ今きさいやまあかまれかへに上よろし侍るる
又さるこゝろに此つ花りはなさるといへるにかくいへれまして
冷泉院東宮と申ける時石井と申す所の水くみにまゐりて書ける
としの代をおもひてかく
年をへてすめる泉にかけ見れはみつはくむまて老そしにける　重之
一大納言の後いまのをりての此所のこゝろをしく大宰に任なるし

もと

しら[illegible]にはかれたると[illegible]きのはの山をみきゝやらし　伊勢大輔

ゆきと見て[illegible]ふる[illegible]かすみのうきな[illegible]らん　[illegible]

みやこに山井[illegible]の[illegible]かゝ[illegible]

[illegible]この[illegible]の扇[illegible]の山[illegible]

行[illegible]と[illegible]てみきゆと[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]二条[illegible]大政大臣[illegible]

[illegible]

[illegible]

てすゝけ

日[illegible]やく[illegible]そのわ[illegible]　長能

[illegible]の衣と[illegible]　選子内親王

[illegible]の山井[illegible]　赤染衛門

[illegible]

[illegible]

信濃[illegible]の[illegible]　[illegible]家

都へ[illegible]の[illegible]せしかくんとすれは　重之

其の国にくたりて

そのかみ人[illegible]杉[illegible]尼

わくの[illegible]て同国にくたりて行[illegible]二川[illegible]の

浦といふ[illegible]の[illegible]とそいふなる

二川の三[illegible]浦に年へて[illegible]

此[illegible]義清下[illegible]の年[illegible]の歌[illegible]

[illegible]して[illegible]

[illegible]　道長

[illegible]

[illegible]都の[illegible]

もと

吹飯浦を[illegible]此[illegible]都の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　大貳高遠

[illegible]

[illegible]の国[illegible]

今のつまふうれ此まう君たん男にかうら一とものかうのめし
寒ニ月頃ヒ今ちの所に行ける時つかしける
都をはわとり君にまうのかぬ都の人は君とこそ之（近衛頃）
おもてやは言せう名さは田の上さして男の杖といひし（若侍）
在山にまうてゆうかう道に山ざか云なしやまにかかて
家ありしのいかゞ句に今ぞわれとこそさしすまやかう民
よりはいふそ云なわい
今は民行みなかくかうしまたにていやましかる里（和泉式部）
しかや八条の家とうしこと捨て車と入てしんかうかな
歌ははまうのいつりてこと以てかいかかわは故のこころ
ふりさ去位行かう
こま枕るれハ日しあさこや入にのきこの一ほうかうは行幸右相
りまされかうてかは山をいふなれの風の音かうして（紀貫）
いつのうて二月廿日とて花つかうとゆうかうこ花つかう
さんとそ人のかてひのかうそ行々わは昔は山にそゆかを
まうのうこう民思ふそうゝ
思ふや未りゆいふかる秋の侍は丹山とうしんとは（蓮仙法師）

入道一品宮よりて抱かうるに式部ハ（笛をとりて）
宮にゆかうるをかつみて此許しゆうかうかう人のゆく人みなのね
よくの笛のおもいかうしたとりかかうし
いりよ又こぞうくうえき鶯の行くいりかて竹の笛竹（へうこ）
人の肩に山こま此人てもとあまさり去からとこそ（ゆかる）
小康内もま去けまうる葛の行てに山にし（往道）
かうの家に住ける此家の子うけゆうかう日久のうく人（此給）
それ又山吹の枝を折りてとらせてゆかうかうりてとかまゆかう
色そ又の日山吹とへの心にうらし云にいにうかせて行かう
御手ずかいつうかう
まへやへ家にいけるも山吹のこみめひの人へ（礼に給の人）きさ（五月に）
しきまへやきんれとも人々のやう〳〵粉くにおかなかけれ
とりいて里に持ちて行かうかう人てさかそせうしまかは知
さんともかいりてすきまし心ととあそ行保し母親て
ここそきうりなわいのうこいわかう（せり）せいし
行きなかう此かう縄そこなへしゆかひ二子かうし世はい怪（佐かゆ）
又の行くすけつうえかうそ紙にて車しうかう行かうかうわて

身はちりの[illegible]やミにしかこそは川くちて立よる　兼綾

ちりの[illegible]のこころに流布太政大臣のしもやまた下

うらしやてつるはきるの

いしのすゑに[illegible]ねども末はなさそふても　座主教[illegible]

雜神祇　二十

一つきなりつる託宣して　いはこさせて行けれて

すまて[illegible]給ける

さらきしや々にたのみをあふいちはやふる[illegible]れ

兼知　からか文にまた擁執ニふまえてもはてきさするすてり欲人非　物執

寄[illegible]くゆかる比丈母まもそ見てもしらるの

葉らはあるとこてまゆ

ゆきの[illegible]の[illegible]あくかれ[illegible]みとにて[illegible]

宗忠　かりてはかりてかる[illegible]のもちのゆるゆくゆひて[illegible]

白妙のまみそらてとらうらそ[illegible]の[illegible]　長純

今はあふいにまちそるいの神を祈らさり[illegible]

からいし母堂の[illegible]文とや[illegible]を[illegible]て[illegible]

帝馬[illegible]ひてんしる

いつくの山川のなかれもくるしきまゝ行事と神さこそしくしく　忠高法師

古きの文字のみれしこそ書付侍るる

行も紙[illegible]ゆかるゆゆするいつく山[illegible]の[illegible]　[illegible]

いさ初て杉のむらに行きて候[illegible]さき[illegible]　山口宣如

身やなき杉の[illegible]山のけきわれ身[illegible]みは[illegible]加けの　豊隆

一日まの[illegible]行けりし東殺め[illegible]作りまて

あなかの[illegible]のそ[illegible]山のひあらこそせや[illegible]　宗藏

日[illegible]初て行年たけりし東杉の[illegible]わいゆるる

まやまの[illegible]の[illegible]のみ代[illegible]杉万代[illegible]きいは[illegible]　浮御

本[illegible]の[illegible]の上[illegible]て行[illegible]雲の[illegible]く[illegible]とそ

桃[illegible]らは[illegible]いきくめ[illegible]神の[illegible]やこ[illegible]　伊[illegible]

一[illegible]守て[illegible]時[illegible]國のニ[illegible]の神よ東施して[illegible]る

[illegible]れの[illegible]て[illegible]雅や[illegible]のよるこ　紋同

一[illegible]の守[illegible]時[illegible]の神[illegible]　かの國

の[illegible]ー[illegible]

[illegible]と[illegible]

主の[illegible]て[illegible]非の[illegible]わいそけ[illegible]川の[illegible]

[illegible]の[illegible]川[illegible]ゆ[illegible]て深[illegible]ゆかあけれ[illegible]　蓮性法師

石清水にまうでて侍る女の杉の木の下に侍ける杉の枝を折りて侍
けるを神主の[illegible]に書付ける
行末は宮ゐの杉の杉のえだにたちにけり　読人し
光舟に乗て舟のへに書付侍ける
よそにてなにかはしらでき舟は人とまりぬらん　時房
名あるみこの千世までもいはほのしまに君かいくへん　範永

釋教

山しなの涅槃会にまうでて詠侍る
いにしへの別れの庭にあへりとも今日の涙ぞ涙ならまし　覚源法師
八ねしもけふの煙とあはれなる薪つきにし事を思へば　覚運
二月十五日の夜中ばかりに
いるかたにこよひの月のみえさるは中にてらされてこそ入しかるらん　寂然法師
たがひにいふかたし佛にまうでて　周防内侍が許に
きたりつるは[illegible]
法の家を尋ねてこゝに[illegible]まうでてこそ[illegible]
法花経を読みて[illegible]
[illegible]衣のたよりとなるらん　康資王母

月輪観をよめる
月のわに心をかけし夕よりよろづの事を夢と見るかな　覚超
維摩経十のたとへの中に此身はせをのごとしといふ心を
風ふけばまづやぶれぬる草の葉によそふるからに袖ぞ露けき　公任
同じ中に此身水上月のごとしといふ心を
つねならぬわが身は水の月なれや世にすみとげんこともおもはず　小弁
三界唯一心
ちる花もをしまばとまれ世中は心のほかのものとやはきく　伊勢大輔
化城喩品
こしらへてかりのやどりにやすめずはまことの道をいかでしらまし　赤染衛門
道とほみ中空にてやかへらまし思へばかりのやどぞうれしき　康資王母
五百弟子品
衣なる玉ともかけてしらざりきゑひさめてこそうれしかりけれ　赤染衛門
寿量品
わしの山へだつる雲やふかからんつねにすむなる月をみぬかな　康資王母
普門品
世をすくふうちにはたれかいらざらんあまねき門は人しさゝねば　公任

誹諧哥

笛の音の春おもしろくきこゆるハ花ちりたりとふけハなりけり　読人し
植の子みちのくにの國に下て侍りけるに二本の杉
と云しくし二本との杉ときゝそこたへんとて侍る
多かハつてきこえける
武隈の松ハ二本ときゝしにふらくうしいかなりけり　橘季通
さかりハ梅とくらへすや桜のさかりハきみかりけり　道済
まちわひて花のやみをもきみならんあめの目に見えし凡とそ　宰相
桃の花をゝりてわかあへくんとけのやゝくのまゝらん　右兵衛
一　三月三日かのふのゐみちとせのかりわかくへそてはし
てはへりける
三千の花みちなるハいくとせまけにしめてこそうし　安原
りうつてはけ人のつかれてなかんと思て人かハし
王昭りけるに多ゆの侍けるや七月七日まきける
天の川よりいはとせと七夕は女ゝやまけんのかなしそ　そのに
わたりに夜をこしこて貴人きこえて兎のきくりやく郎　陰陽師
今のすまいてまゝんいてさまゝわかハ

四ミ山字山のすゝろハいせのとろくてゝ手すゝろて侍りし
けれハ扇をなしてはへるとよみそて
又ふてぬれハあけてかはりに扇のかわりにそへてこれは　和泉式部
うすもて行きまあはしさとにくつきかりそものゝ名郎一
まちわひていく秋かはせたゝのかのかゝひくもまかもさや　義孝
三条院の御時に人のかすまてせんく侍りけるに桃とて
て侍りてまわいちはけてあらてつかまつりける
逢坂やしみつしらんもらさわれたはしかれ草桃かれ　小大君
人の子をけりわかくいつかんなまさとゝ合けりてこそ
ちらくわかいまふる
まけくのそりけるあまいとて火事にせてそのかり語人
入道摂政かれて侍りける道にたち帳のたくいゝてニゆきの矢
と云て子けりけるともすてそをてはたかいまゝそて
思ひか書ともあそつれとやとを思ひぬれとかれ　道綱母
人のかくいつまかん人てりもいしのかわいなる
白河のかゝめくいとしらるにゝとなりて里のとよりて　能因
かのきみちてまそてきてりけい女のちるいかえくいりてわかるゝ

又ハ世にちらさて家の名と思ふは近衛院
時ハ流ハおれやちよにかきりてなりハなかしてそめおかすへからさる者也

此集ハ白河院の御時也　應徳三年（丙寅）六月廿日撰之
撰者　権中納言藤原通俊

金葉和歌集
春部一

うちなひき春ハきにけり山川のいはまのこほりけふやとくらん　顕季
いつしかとあけゆくそらのかすめるハ天のとよりや春ハたつらん　顕仲
氷らすしみ谷川のうちいつるいはまもえやけりさくらん　肥後
春たちてさかのゝ風のつるわいけさふきかよふむとそ　兼昌
いつしか春たつゆかしたのみつまさらう　長實
あら玉の年はくれともかすみにハたちける香もりや見えつのにらん　顕季
おほのくに春たち猶の雪ハ卯の花とりや見ゆる　大貳
ねきとはしすゝきのまかやけふのゝたにはきえなん　教長
年のうちに春ハたちぬるわかなへし山のきえつらう　顕輔
あつさゆみ春の山へにすむ人のかすみにたちてくるらん　長實
鶯のなくにつけてやまかねふくきひの山人春をしるらん　顕季
冬こもりや梅の木すゑに鶯のこゑをよるらん　大貳
暁に鶯をきくといふことをよめる
鶯のこゑをまちつゝいへはなけけふもそてかけ　源雅兼
春雨はふるともみえすたまのをにぬきかけてけり　俊頼

桜花よそにかそへてなくみる人のかけれ　良暹
のこりなき子の日の松のそてふれん山かせにかゝれかれん　為長
まつ千とせみよの千代まて雅か松のひさしの千鶴いきしらす　近房
いとゝ山花くる人てうたかなれて山はるかすつこ嶋か　尾張

白川花見卒爾に

よそにのみ待やと花て待らんまつはさかりのけふけるか　高陽院殿
白川のみなれのしたきえかゝる花のかけのちのこけるかな　太政大臣

故京花

さゝなみや志賀のみやこはあれにしを風にまかせて花そちりける　中納言
ちるものは花もむかしにかはらぬをいまもむかしの人そこひしき

終日尋花

白雲のなかそとおもふ山のはのかけにいりぬる白雲のはか　良光朝臣

堀川

女房とも花山の花見せてまかりてそのよめる
よりてこそなかむるものゝこゝろとはやさしかりけん　堀川院御
てゝも山にかへる花のさそふよりけふのかけれはみき　長実
みよしのつきの白雲桜とみえてさえる山さしもかゝりける　従二位　太政大臣
桜花さそふあらしの山しろくちるまでのをりふしのたえぬ　郁芳門院安芸

いにしへの宇治のかしもや柳かまつさくらたにかゝる世はいとゝ　公長
桜花くにのかしらかすみのもみちのさくら花に　俊頼
ちる山やまたる花のにほひはみやまの川ならむしけれ　近房
しられて川きゝてとふかるとふかのころもなれとさくら　行尊
さやかにわかれてこゝろもしらぬ山や花のやまのこのよ風ひきの古き　堀河院御
花はちる風やまねとも山川もさかれ桜のまさりのふかき川の流れ　雅兼
けふこゝの春の風になかれて宿とる花のにほひかな　兼経

風送花香

梢には吹くともみえて桜花にほふそ風のしるしなりける　俊頼
ちるやまはいさしらすけふ吹く風の花と見まかふ花なかりける　信通
みよしのや花やさかりん山川の井くたのまつもかくれ行　信信
その春のむかしの花とこそあれそのかくれをはかくるゝ　加通

堀川院四時花のうつろふと花のうつろひて大すゝ物のうしも山
のゝ中のうちかけてうたかむかしとかたゝるの上に　大納言
しそこそ行事ありてこそ
桜花やまをこえてかすみのたつ山と見ゆるはみよしのゝ里　蓮夜
かとのちりまての梢しもみえてちかきのよやいかにくるへき　英顕

桜さく山田とりける三つのかゝしこそ　やなきと見ゆる秋　経成朝臣
旅泊泉にしの叶月あるなも知らせ　山たかく見ゆて　季政
主[illegible]ありけるも　をのゝ日かりて　みかりけりとやん
してーー下秋ことかくかの衣かりてさいれと　伴ふ事ありけ
達はかりて気をとてたへつましちはい
みかは海の月の光まつ世はいや井には　てそかはしし　小野
奈良かそく百首ーーまいと
山里はのかはさくらひかりまのさえ人いよのうれ　信[illegible]永縁
木のかはやかの信のかはなく　さこそてりきまけ[illegible]　兼季
あかは田はいれは花川とまかわいのくるのすてあつてさりく
苗代と
雨の井のかけの小苗代にも種まきて　なにさてる　西園寺
山里は[illegible]かの苗の苗代とつくつのかはるにかれは　隆資
まら宮[illegible]人はなかりけりみ川ゆなかふきつの心永[illegible]
限かぞてなくもおもき山なと　桜かくさいかん井ての[illegible]　摂政太政
見てかしるのみ川も付そて[illegible]ことの山なきの心長[illegible]
入日[illegible]まぢかれ井の光かかて　山下て　家の[illegible]ーかな　参河
文みねかくまくてあつく花にさいくの橋とかゝ[illegible]さるのこ大丈御傳
此ちこかはさくのえいむくはのあさかゝかくきりの波かな
侍ての花さかれ花の色風のたゝらし波や松かへ人　劉季
ありかのふくいされと花の色のいまれとみてさまかて　越後
きのくは近いきむくくはきするなみゑ　見やと見ると　侍郎親觀
三月盡日と
みかさう月のゆるかしこのてせかく人あれの程まて　こん後花ー
重帳にてゆくし三月つこりのはー
見かれかりのつき春まて　しきかゝなき　抄代和[illegible]
夏部二
我のこえつれゝされれ夜衣ゆくてーきゆかりゝ山あかはいゆ賢ー
夜山のあ染すらのまさくて卯花てゝてきさらか　盛房
とりえて松ある染て紗をかはは松の緑まれかくかり　隆以蒙
むかしく夜このかて散ちらて中やすてて神まつるかつ　従信
雲の又けるのてまけり卯の花すとのつ里人冬こかりなすあるなき
卯花の　さるのきむこいふれ　しは花まみなれかむ川のさと　摂政大臣
此山のみかくしきけてあ卯花いつるこ中ゆのかしは[illegible]とまた人要路

青柳の[illegible]大[illegible]庭の花の[illegible]わいやつれ[illegible]　行信

けふ[illegible]すさい[illegible]れ[illegible]けり[illegible]　[illegible]

けふ[illegible]の[illegible]つくく[illegible]　梅盛

[illegible]れ[illegible]追の[illegible]　[illegible]

一[illegible]あ[illegible]と[illegible]　[illegible]

きく[illegible]一[illegible]の[illegible]すれ　[illegible]

一[illegible]とき[illegible]の[illegible]　[illegible]

一[illegible]山[illegible]の[illegible]けの[illegible]　[illegible]

山[illegible]一[illegible]れ　[illegible]

一[illegible]て[illegible]とき[illegible]

[illegible]一[illegible]中[illegible]　[illegible]

[illegible]の一[illegible]　[illegible]

一[illegible]そ[illegible]き[illegible]　[illegible]

雨中霰[illegible]

[illegible]やこ[illegible]大[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]けふ宮の[illegible]八[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]五月[illegible]

[illegible]我[illegible]の[illegible]永[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]やの[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]すれ　[illegible]

一[illegible]の[illegible]　[illegible]

一[illegible]やの[illegible]の[illegible]　[illegible]

一[illegible]の[illegible]　[illegible]

一小田の[illegible]せて[illegible]　[illegible]

一[illegible]入江の[illegible]の[illegible]すれ　[illegible]

[illegible]の[illegible]月の[illegible]れ　[illegible]

[illegible]や[illegible]と[illegible]

寛[illegible]家[illegible]風の[illegible]とよめる

[illegible]風[illegible]　[illegible]

風[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]風の[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]

大井川いせきの舟のとまりかはのしもみちかつちるかけ　頼之

よそにけになる山のはしらむかへる峯の月　親房

夜のよる月のほかすゝしのふ田の水も洩て　基俊

みなきすけ川にみたれやうすき二月にこそ秋やまさらん　政隆

秋部三

ことしよりいつもそれの風なれと秋のはしめはすゝしかりけれ　為實

まくらはなれてねさめの床の白露を秋のうは風　良實

下紐のとくるあさき七夕の心きかはのうらそかものつて　土佐内侍

七夕の苔の衣をいとふことくれかけてにけし　經因

かさゝきのはやすゝし七夕にけふかけてあかぬ秋なり　元任

此ころそ二つになるや七夕のまくらにかはすつゆそひかさらん　内侍

天川なかれていくよの七夕の舟のとまりもかはらぬと　三宮

七夕のあかぬ別のなみたにや衣の袖のぬれまさるらん　師時

天川みなきの舟のわたしもなかりけり　御社

まくらよりあかつきの空の秋の夜のつもれる秋の露のしけき　源縁法師

とのゝはかきくらし山のはの秋のしたは　經信

山のはにくてまち出れとこよひの小田に伏いきてしかな　行盛

師賢朝臣の梅津の山里に人々まかりて田家秋風（といへる事を）（よめる）

夕されは門田の稲葉おとつれて芦のまろやに秋風そ吹　經信

風吹ハ稲葉やそよくわかやとのいほもる秋の夕月夜　忠隆

侍りけるにゆふたちの雲の月なけれとこのみてやかて　經房

鳥羽殿にて殿上月といふ事をよませ給ける

新院のせし藤原月をかくしてすむ月のかけ　大寳人

池水にこよひの月をうつしもて心のまゝに我物とみる　白河院御製

てる月の光のみ水にやとらすハいかてかくハ知らまし　經信

閏九月あるとしハ月を友とよめる

秋ハ秋のなかはすきつるれとこよひの月ハ名にもしられける　公實

雲の浪かゝる衣の月みさをを清見川にもかくてやみん　六条

また秋のかゝるとよみてもかはらぬ秋の夜の月　修理大夫

いかにして天の河原の月やさらに山と　師俊

後長谷ありける比山里にてくらしけるに月をよめる

こゝよりは雲の上の月よりもこゝにて見るのみきかは　經信

てる月の光みつゝ山のはにいるまて秋のめてつる　撰律

めくらしてみるにそ見えける浮水にうつるそらの月のかけ　按察使公通
くもゐにてゆくかつ月のかけはくもりもなくてすむ秋のそら　家経
いまよりの龍田の川の夕くれは月やさえけん　頼輔

秋月如昼といふ事をよめる

菊のえにまかふそせいとふくもりなき月を知　隆源ー
みかさ山をちかたの月の影さえてのこりなくするやとりなるらん　頼綱ー
ますみさねよる月のかけかさなりて川せのそこもあらはなりけり　経信
おもひやる月のかつらの影なれはあき夜なかにてかはるも　後京極
ひとりふしてよるの月のかけさえてあかしかねけるくもゐのそら　家経ー
さそふらむくもゐにかへる月のかけ山のはならぬすみかなりけれ　三宮大夫
ねさめつゝ夜はかけさえてすむ月のかけをみつゝそあかしつるかな　孫孝
あさちふのたまちる野への月かけはひかりやつきにたとふらん　有教母
まつ山の月すみわたる夜な夜なは山のはのまちけるかな　荒木田延良
ありあけの月もあかしの浦風に浪はかりこそよるとみえしか　平忠盛
嵐ふくやまの紅葉はちりにけり月はさやかにすみのほるかな　俊頼ー
家をいてゝくもゐのそらの月のかけすみわたるらんよはのさむさに　六条顕季
ゆくすゑの川のなかれはたえすともさやかにすめる月のかけかな　顕仲卿母

いはせ山たにの嵐やさむからむ夜ふかくてらす月のかけ　公實
つれもなき人の心の秋の夜の月のかけにやおもひしるらん　三宮大進
世の中をかくてやすくもすみ行は月のかけのみ空にすむらむ　顕仲卿女
たちかへりみるもそれとはしらさりき月のかつらの紅葉なりけり　長實
夕されは玉まくくすの葉をしけみ秋風ふけは露やこほれん　俊忠
白川のなかれのすゑもあさけれはやとれる月のかけはさやけし　長季
ゆふくれはきりのまかきのむらさきの花なきやとのしるしなりけり　師頼
ゆくかたのしられぬあきのくれかたにたれかまつらんたつ露を　顕仲
わすれぬよりはかなきものはあさちふのつゆのうへにはやとる月影　雅實

ーをとふてそーー
ー蘭をよめるー

さをしかのなくねをきけはしかのねのいつれの秋のもみちなりけん　俊頼ー
宇治川の河せもみえぬ夕きりにまきの島人舟よはふなり　基光
あさきりのたちこもりけれはかりかねのなきゆくそらもおほつかなきに　通俊
かせふけはまかきの花のちりかたにいつかはやまのもみちなりけん　仲實ー
つゆしもにうつろふいろのかなしきは秋のかきりのもみちなりけり　師賢ー
大井川岩浪たかしいかたしよ岸のもみちにあからめなせそ　経信
ゆふつくよをくらの山に鳴鹿のこゑの内にや秋はくれけん　行家

大井川井せきの音も此ころは紅葉をせけるにやあるらん　邦季
山おろしの風のさそふや谷の紅葉はよそにちるらむ　経信
大井川の逍遥に水上紅葉と云事をよめる
拂ふ嵐にとゝまる島はとゝまらて紅葉はなかる　伊家
落葉埋橋
小倉山みねの嵐の吹からに谷のかけはし紅葉しにけり　邦季
大井川ちる紅葉はにうつもれて戸なせの橋はなかりけり　為長朝臣
九月盡の日大井にまかりてよめる
かゝれとの紅葉ちりてやとまるらん秋のとまりやいかにおしき　為實
冬部四
昔十月廿日あまりに小倉山にてよめる紅葉し　源師賢
此年月けふの山の嵐さへかくにこそすむ川の
大井川紅葉をわけて錦とそみれ　平致親
三室山の木の下紅葉人の心のまゝにちりかゝる　経信
たつた川こゝに紅葉のみむろの山の紅葉をそ　信頼
心とめて紅葉せし山のあらしはしのふやなき人　朝臣
月清き夜のみる空もさやか也　経信

閑路千鳥といふ事をよめる
ゆく人もしほ千鳥の鳴声にて寄水の浦の雲ゐ　源兼昌
ふゆ舟さしの哀れ知れぬ旅の道のそらにて　隆経
昔川のしもくても見えくてこれ人にて加けれ　内大臣
ふかき夜の川原風さえて池の池水　仲実
吹くる風の枝にも山風さえて　経信
さゆるもの夜ゆゝへしみかねれ　近房
冬のこゝろを
みねの若木中えつ木のけしきなかりける　為長
衣手のさゆる風に山の雪ふりける　頼綱朝臣
寄陵の浦の橋　寄陵法師
初雪の此冬のしるし　経信
よしとさゝ此我身なをせる　侍従朝臣
をりやまの山をかは　琳
かた山の松のつゝれ雪まよひ　近房
其代の山の雪やかへり　中納言女
海中国は高山しよめる

雪ふれはあらち山の椿さへまた冬なからはなさきにけり　行盛

衣手のゆくへもしらすをくら山雪はふりつゝ　俊頼

わかやとのこすゑはかりをしるへにて雪はふるともわれはまたなむ　六条右大臣

都にも雪ふりぬれは今朝よりはまことのゆきのまつはしりけり　隆源法師

ゆきてみむやまとにしきのはるかに　摂津

歳暮の心をよめる

ゆく人のとしのくれにもあらねとも花咲かれぬる日を待つ　源行時

なかなかに冬のまかせにやまさとのいけるにもかはるとしのくれかな

まつかなしのはてはまたかはりてもつもるとしのみちたえぬらん　永済

いつしかとまちしはるくれはとしの暮ゆくことそ悲しき　皇太后宮三位

行末をかそふる心にしてはなしとをにをくりむかふる　同

賀部　五

竹不改色といふことを

ありとみえいくよをかへむくれ竹の世のためしにはひくへかりける　堀河院御製

松契遐年

君かため松の千とせのあひにあふはしとしはいつれのちかひならむ　俊実

君か代は松の上葉におくつゆのつもりて四方の海となるまて　俊頼

君か代は末の松山はるはるとこす白浪のかすもしられす　永成法師

ゆるきなき代をいはひてみかさの山にちよをへてうこきなき代をそまたるへき　行盛

今のみかとを祝ひ奉るよし大嘗会の悠紀の屏風にをことの里をよめる　敦光

松風の雄琴（コト）の里にかよふにそをさまれる代の声はきこゆる

備中国二万郷といふ所をよめる

みつきものはこふよほろをかそふれはにまの里人数まさりけり　家経朝臣

同国いろ井といふ所をよめる

あらたまの年はへぬとも君か代にいろ井の水のたえすもあるへき　時綱

いはひつるこゝろもしるくたかさこの尾上のまつの千代のこゑきく　周防内侍

君か代はつくしのまつのかすかしらむそれやいつれのみつのしたゝへ　道信

君か代はありそのまつの千代をへてよろつ代かけてみなとこそまて　通俊

一かうてあかし三笠山にさしてゆく月のかけのみちきりは　匡房

一かさこの小川の水をせきてこそうせよとて源よりはまうす　源俊頼

川すゝし宇治川のまて君か代は松のちよにもつきせさらなむ　六条右大臣

すかはらのよにもかはらぬ住の江のまつの千代のむかしをそ思ふ　故法性寺入道前太政大臣

藤原長実卿のもとにて川のへのおもひはなしにゆくへのあまたの川のかせ

といふ事をよみけるによめる

くもりなく今よひの月の明けしは君か千代へん万代まても　源頼ー

別部　十六

君こやこしの旅ね[illegible]　経長

[illegible]へし

一大隅守にかへて下りける時月の[illegible]別るゝ

[illegible]月[illegible]　為成

[illegible]　為綱妻

伊勢の海の[illegible]都の人[illegible]　明頼

[illegible]　行宗ー

[illegible]都[illegible]　有定

[illegible]

[illegible]月[illegible]　通俊

[illegible]月[illegible]　公実

陸奥国へまかりける時餞の宴にて都へつかはしける

[illegible]東路[illegible]梅[illegible]　則光

恋部上　七

[illegible]

[illegible]　公実

[illegible]千夜川の[illegible]　兼[illegible]

[illegible]　富[illegible]

[illegible]　長実

[illegible]

朝ね[illegible]袖[illegible]　周基

[illegible]へし

[illegible]　公基

[illegible]師俊ー

たのめてし[illegible]

[illegible]

[illegible]月　恭光

[illegible]へし

[illegible]　小大進

[illegible]橋[illegible]母

[illegible]涙の川の[illegible]道[illegible]

[illegible]　小式部ー

よのうへハなをかくれんものゝ山の花のきしにのかけに　公實

年ふれと人もすさめぬわか恋や朽木の杣の谷の埋木　堀河

わすれし風のはけしき[illegible]ハしらすてよるしらぬやとかな　相模

[illegible]床の上ニせよや[illegible]のまくら[illegible]　後徳大寺

[illegible]なからそのやまの[illegible]　雅通

[illegible]世の人の心を[illegible]のちのちとそおもふ　[illegible]

[illegible]のこのみそれ[illegible]　雅親

つれなさの[illegible]わか[illegible]かくし　家隆

[illegible]風[illegible]のやと[illegible]　雅経

[illegible]名[illegible]つれなきや　[illegible]

[illegible]

[illegible]河のなかれの[illegible]思ひしつ　隆忠

[illegible]世をこそ[illegible]けれ　[illegible]

[illegible]世[illegible]人[illegible]　教通

[illegible]思ひの[illegible]　俊頼

[illegible]　殷富門院大輔

[illegible]返文[illegible]と[illegible]

こゝろなき人の心[illegible]けれ[illegible]　西行法師

雪[illegible]寺[illegible]

[illegible]人の[illegible]　三条大進

[illegible]人の[illegible]　摂政太政大臣

[illegible]千羽[illegible]人の[illegible]　顕季

雑来不若といふ事を

[illegible]　俊頼

[illegible]　源宗女

恋歌下八

[illegible]　良暹

[illegible]　寂蓮

[illegible]　内大臣

[illegible]秋の[illegible]　仲實

山の[illegible]　俊通

[illegible]の[illegible]　長實

人ハ[illegible]の[illegible]　成政

ましつや思ふらん我のみそ命はかはる物とかはしる　読人し
恋わひてなかむる空のうき雲やわか下もえのけふりなるらん　周防内侍
郁芳門院の根合に恋の心をよみ侍る
あふことのひさしにふけるあやめくさたゝかりそめのつまとこそみれ　河内
この世にて見えてくるしき人とつらしとおもひのつゝ　中宮上総
忘草しけれる宿をきてみれはおもひのきよりおふるなりけり　俊頼
わかれをもかへん世には思はましわれ人のつらさにしゐて人とし　読人し
ものおもへはいはての山にしけれともくえはてんのくさかつきれ　国信
思ひ出て歟は山のおけまてもいつなく　忠隆
いかせんたけきの杜はこなれとまてら月のなれきし　俊宗女
やゝきのなやます人あはんかく人の信たえ　肥後
多聞もいはてことともひかりけして
月のあかゝりける夜　権僧正
待人のくるとも月なかれ侍けれはこそもし　永縁
おも事れこそ侍しの涙と人は知らや　権僧正
侍りてこそれ此須のあたにてみかくて地まさけ雅光
そゝやさえもにしも山も水くたえそものゝうらん　俊宗女

也見月のあかゝりける秋みつかはしける
のちの人のくるそしまする
それとおもひしやまこし人とあらそひて月かはる人　橘俊宗女
ゆく先きりは年をさそのいはけるとさそや侍れ
上東門院に侍けるなまめ人にしのひつけて十二
尋ねくるもてつなかは咲いしてつかはる　林源縁法師
堀河院の御時の艶書合によめる
人しれぬおもひありその浦風に波のよるこそいはまほしけれ　中納言俊忠
返
音にきくたかしの浜のあた波はかけしや袖のぬれもこそすれ　一宮紀伊
一言合に恋の心をよめる
名にたていはせの杜の下紅葉しるしていろにいてぬへきかな　兼昌
雪のあした出羽弁かもとよりかへり侍けるに
とめゆかんあとたにもなしつれなくはけさふる雪のそらおも井　出羽弁
返
冬の夜の雪けのあとをそけさとひてたけくやなかし　経信
すまの浦にて恋といへる心をよめる
わか恋はくちせぬ門のれいはなれは吉野川の山かけのしるみかれ遠しそは　読人し
藤原顕季

近乃はてさちえや松稲〳〵山の里にいくらも袖のほすまへ　顕季

む月の月のかけさす盛世かしまかてらいつもそのまゝ□り　永實

けふもしらすくんそとそのかたはいつかたこいつらむ山　作部益

のか花の見も風も夏をはいもそのかゝらやくく　読人―

みよしのゝ山はしらねともかくたにさゝかふりみちつもの　―

あまのはら吹ゐゆくかくくさみにきまつらつれて御覧れ　―

深山のまやいつたとおくた川君にかつきもゝいへし　―

あつさゆみいへは降しきつれともかはりの里　―

こゝろは山てしるかへをかたにのわかすやまきもの我心は　―

こゝは白けれと、いまもよそに霞の山もなにへ一すちもなき　―

こゝのめにしも花よきのちれとなくけれは、こゝろやなつかしん　―

幸のていゝ見ての色のすこし香そゆかし人や梅されつ　―

あさよいは桜かりつゝかゝる心は桜か月のかはりもにやなりん　―

あさこゝいかてかはすのされ井手山君いはてけふのうちはくゝ　―

あき年いつかまやてゝことゝ千くちはけて年比一かたん　―

しかも山のかけゆく水のうれしさにかねはてまつはかはつのよる　―

ゆきをまつさいくゝ春と君かゝとこのゝきされて　―

ひかりしらやまかくのなかのさくみくらのきみかいつや　―

あさ事を江花のものつれなさし我心のこときめの外　無住宗

子もみあさことち川の花くいろいかてはしまもらの外　雅光

むけしまなはる所のさしるかとれいてもあすなるゝ　顕季

あさらいたゝ人ならいときて舟のこゝろの中にいつらしきはれなれ　基實

あまの命やこいか事はあたゝ無世かそけれとゝみ　俊頼―

ありまさしらさりて山のことをのくしてくらまりて　―

詠歌上　八

若道方あてゝて幾年くれて出来るゝときてみゆけの
御の梅のまゝ住しとまてはいつ本の宿同し舟にて花の香来
まてれく咲かりとこそしらなゝ

此の花ゝ若さうし桜のちいてりゝはかれ木に如かけるかな　経信

いくとせて君をちらんてうかてかへり花のさゆきと　内侍

ちるをまてほ入て桜の花とこそいふ

いつもあれとありしく山まつ花より内にしたる人を思ふ　弘籌

いそしのゝ山のさくら花かつ見てもあかぬやこゝろの桜木　定信

ましらに文ていて千くさのえんゆくゑのまてはこれ　直方

山ふかみ[illegible]のこもれるとはかりの杉の[illegible] [illegible]惟信

隆家卿大宰帥にてはへりける時香椎社にまいり
けるに[illegible]杉の葉をとりて帥のかうふり
にさすとてよみはへりける

ちはやふるかしいの宮の杉の葉を二たひかさす我君そきみ

いくかへり[illegible]杉の神代より[illegible]と[illegible]

仁和寺にすませ給ひける時[illegible]

よみはへりける

[illegible]の[illegible]川の[illegible] 三宮

大宰[illegible]の[illegible]にてよめる

[illegible]

[illegible]

世[illegible]月[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊勢国の二見の浦にてよめる

玉くしけ二見の浦のかひしけみまきゑにみゆる松の村立 [illegible]

天川これやなかれの末ならむ[illegible]布引の瀧 読人し

[illegible]

[illegible]

[illegible] [illegible]

和泉式部[illegible]

大江山いくのの道のとをけれはまたふみもみす天のはし立 小式部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人のよみたりける心をしらでわろくよみけり
返のうたはいみしくきこえけれは果よりこそかくの和歌也
女房時房か言書て待けるを申けれはいさゝかわいなき
并ときにかけるはしをたてまつりけれはしらはす
とかくして出ていりて見ける程にわか時房かなりて
忍ひてとまりて院の御かたへまいらせしそうらうる
りしかは御門はいみしくめてたりける
めてたかりけれはいかなる人にかとけれはかくそのたまひける女房 やい時房
いとをかし山田てかよふまさしくの三つのまとしくれたるなと 桐模
水車 と
ろやまみちてとめてかへりたる水車我と浮世をめくるとそきこゆれ かしき
し上東門院 柑子をたまはりけるをとてその御返事にせられたりける
てつけらのれとも上つかはされけるは年の始に好けるは大臣殿御
信西か奉てましくそとものあそひけるとそ
とまれかけりしつゝ年をして
草花のそのまつのきさらきはてしとのさそのかたやと常道
男人のうちそへて手如てねときならけり五銭とにある

とこせはひらいわいちけてつかはしけり
のこしたりまたさらのふた銭をてにさへてみてくれはまいりたれは作井た
ね公白氏文集の時をは国より白かねをまいらせたりとて
ゝてこそせ給ひてものゝわか女房かりしかりけれは
若きこそてまれそてしくものにそかへりせんとて浮世
事あつかはりつゝかわる
らいすくせて西の方よりゆかしみするをあらためえんかわめる
甲斐国よりとて比の人の許よりけるこそ事
まてものをかへすのめりそてかへしたりけるわいまいらす
よめの子代わりのあめをあはせいかにてこそあるにもなほし語人
ひらくのよみけるは寛弘年中（内大臣）入日の時をうせそてみつる和歌
又さやけりしせさりつゝわいまいらす
思ふやや井の月をしるこそていのやまよりまいりて平忠盛朝
ようにけり人のかれてよ好のわいしくしてかくてかへりけるの
方へまいらんとしけるときにて事の後しのうちありしまきとも
よるわいそいまける
大のよきまて一をまかせられてにはりけるの君ゐたまひけるに小大進

男のありけるよしも人ことなりて入りけるよりのちにこ
のまうてきあひけるわれも侍りてこそ見つるをのちの
何事もかくてはうしやとてみのほかのにまかりて
ねのうちに人比丘とならせてひきたるわけは彼は
祐あるしの人にくわしく子ありしまかりてわれてあるなる諸人し
僧信にて侍りけるは彼也慶暦太刀の
あるうちんとして高のものわれてしもありしかるに
いまされてしはやましかりけるわけ
是ありけるに太刀とかや物はさやかにおもしえてそあり僧都し
大宮の御母北も出家して仁和寺わか円行と申
みちのあるもの唯今わかれのほとにあるに
こく人いはゆる我母のわかの御ことをれる上かは後なりける祐家より
ことあるみへのりて上りて上の子となりて侍るかりし
こころいしをさ比叡も世ところのわかれ侍る
大臣わとは行かたなりこんとこの撰して右かは法印し
保寧といふうるそ枚方の内の存て意しいはれ候也
とせいふなりつうなさときこそしかり

こりつやうすわかれいますそこくりしけるも今ことあるなる寛信母
すつまわいおそれやうるしよ如何なるとおもふ御門のこころさまもある隆資
みちのにし北の方きしにかくのことくかうしつかうかまつりしも今はれ侍るまて実光し
行人しもいやまうかなる後すまの後やおかのちのかうしん家経し
其後黛画眉と細長といふ事ありける
行のりてくまれるたけのいらくさしいはゆる位るけるかやり信都し
年久しく時行しかうそれはけるに給所にも驗證しける
と祐家にあそひてみけるしものかにしてさめうかくて姿
しあやしけりやすてありかかはこそてこそたちかに侍るになる
ゆるてい法かたちゆかこれかんかかにもかけるしきこえ
いま母とすこしいまつの教わんくいすかるれかうわか
六条右大臣は家の家照て家あまりりてくまうそ
家のこみとしらるかはかりける
ちとせすそれまん家の庄法のけるもんと四月せし祇母
宇治平等院の寺主いはく宇治の寺主をつとめ
のちには山のちやそてしめ
石川の庄のとしとかうかてか此やまうこ山ことしも本忠博所

いふと人のいひ侍りけれは　書付侍りける

侍る[illegible]　周防内侍

紫式部か[illegible]

きこえし[illegible]の[illegible]　国基

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]小袖つかはして

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新録下十

[illegible]

[illegible]

法三宮院の御わらはにて五月五日一品宮の御帳

[illegible]

[illegible]

律師実源か許に女房の仏供養すとて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一　男子例よりは此方宿ほとしく候に人のもとし
しりてあまりはりのて後はわひけり
いまゝ月とのきれおつかり今はゆまうれや女ゝの男子
人の心すゝ此母の細人来らう行り謂てより病として
又わのんをしけるけつきとよきて三ッ逢けるう
李のるに所ゝそて哀ゝは哀翠の心らう子てかくとも千尺持人下
小式部ゆゆらせそは上東門院しう年比給ゆりけるきね
ともき所よりつのしらけるし小式部ことうきつけれるう
けるとぞ云てよする
ゆうさり昔の中にいわもとくうわれのあとさくらへ可きる定家卿
白河院のせれのこれよりのての家此菊ありて哀の心
さうのし深うりけるとぞ云てよする
華末まで五ゆうとゝにりの此松ゝ人其の心てさらわい給へる
花園わかにさくて行る国へ旅ゝりけるに正月より三四
月まていつまり毎の中のゆうりわい当代ゆとそてゆて
きゝわい下まいの也りよれとけくそて人ともうわいの守紙
国と云ところもてまそていのれよゝわれ寄るらめつ

玉の川のこう水ときゝて世ゆゝゆうあり千鳥のなく水　紀國師
忠盛立てとあるうて三ヶ三年とや世ゝ右の家集に
又いうてふそてこうまうんわけれいりゝてて日けれ後世とぞ　持藤原
八月十五夜の月のあきの衣の紅ひ哀人のまう月にとよりゆ世
こよ給てゆてなうけり世后の次人ゝいゝすうてつう
はるこんどうてうら給て時宜ても次人すうす月ことれ　選店報も
弟子品の心とぞう
吹く風を鷲の山風のうちよい衣のこれ也けりみえしや　家卿
はのゆきゝゆのゝ行とそ[illegible]とも也やそ世を世とうえてのある晴のう人
提婆品の心を
年りのゆのゆのさらゝねたてる月と哀れ哀いの大ゝ人のう付とい師時
涌出品の心を
こうよいうろう[illegible]名うるうれい中ゝ白くいゝう人の心ゝ大僧
不軽品の心を
うのてはほどうらゝてゝわれうれゝらう大ゝて衣のあれなれ
信代のやつのくはいひとくてうとゝうるのこのゆりうるのこう
とはる事ゆよする

家を出山に入て[illegible]のちの世をねかふらん懐奘法師

極楽をねかひてつとむる事に

[illegible]の海の[illegible]法師後

地獄[illegible]人の[illegible]

人命やはかなき[illegible]

人の法を[illegible]せらんと[illegible]

[illegible]

はかなき[illegible]の[illegible]

草の[illegible]田口重如

[illegible]

[illegible]人[illegible]

三十一

[illegible]法師[illegible]人[illegible]

[illegible]て[illegible]

[illegible]法師[illegible]人[illegible]重

[illegible]の中[illegible]

[illegible]深覚[illegible]